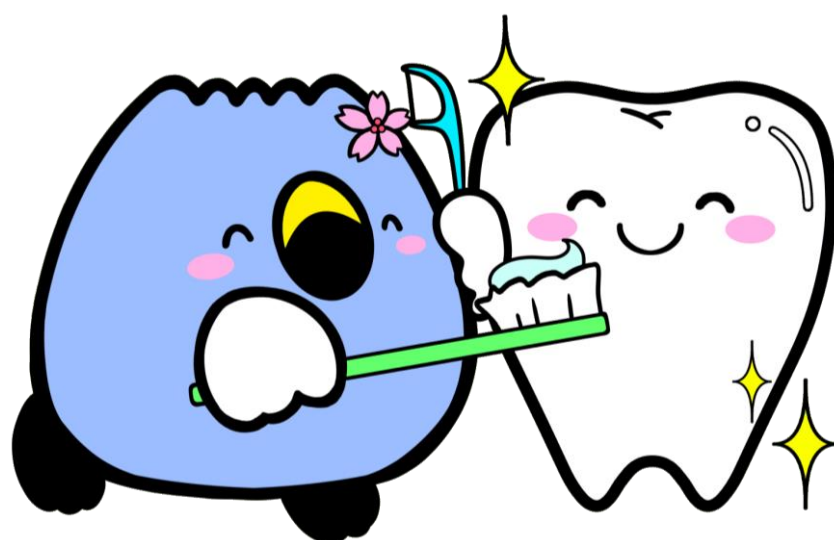


第 3 次 阿賀野市歯科保健計画

(案)



阿賀野市のイメージキャラクター
「ごすっちょ」

令和 3 年 月
阿 賀 野 市

は じ め に

阿賀野市では、「元気で明るく活力のある魅力的なまち」の実現に向け『阿賀野市総合計画(平成28年度～令和6年度)』を平成28年3月に策定しています。

また、同じ時期に『第2次健康あがの21計画』を策定し、6つの分野について健康目標や指標を定め、だれでもが安心していきいきと暮らせる阿賀野市を目指し、保健事業を展開しています。

歯科保健事業につきましては、平成23年度から「歯科保健計画」を策定し、歯と口腔の健康について取り組んできました。また、『第2次健康あがの21計画』の「歯・口腔の健康」分野においても、評価項目と指標の一部を明記しているところです。

当市の取り組みとしまして、平成23年度に、フッ化物洗口を市内の保育園・幼稚園・小中学校の全施設に拡大実施するなど強力に施策を展開してきた成果が徐々に表れています。

しかし、全国でトップクラスの新潟県内において、当市の歯科保健の実績はまだ県平均を下回るものが多い現状にあります。

歯科保健を取り巻く現状としては、子育て環境や労働環境、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための新しい生活様式を取り入れた事業の実施など社会環境の変化に伴い、乳幼児から成人・高齢者までの生活習慣が大きく変化し、歯と口腔の健康に影響を及ぼしています。また、成人や高齢者、障がい者の歯周病等口腔保健に対する個人的なニーズも多様化しています。

そこで、これまでの取り組みを検証し、新たな課題を踏まえた『第3次歯科保健計画』を作成しました。

少子高齢化と人口減少が進む中、高齢者が健康寿命を延ばし、生涯自分の歯で美味しく食事ができることは、すべての市民の願いと考えます。

今後は、この計画に基づき、阿賀野市民が生涯自分の歯で食べられることをめざし、個人・家庭・地域・行政とともに協力し合い、目標の実現に努めていきたいと考えております。

目 次

第1章 歯科保健計画の概要 1

- 第1節 策定の趣旨
- 第2節 基本方針
- 第3節 位置づけと期間
- 第4節 進捗管理と評価
- 第5節 進捗体制
- 第6節 計画の周知等
- 第7節 計画の体系図

第2章 第2次計画の評価とそこから見えた課題 4

- 第1節 数値目標の達成状況
- 第2節 各ライフステージの評価結果と課題
 - 1 乳幼児期
 - 2 学童・思春期
 - 3 成人期（含む妊産婦）
 - 4 高齢期
 - 5 要介護者・障がい者等

第3章 第3次計画における取り組み内容 20

- 第1節 取り組みの概要
- 第2節 各年代における取り組みの方向性
 - 1 乳幼児期
 - 2 学童思春期
 - 3 成人期（含む妊産婦）
 - 4 高齢期
 - 5 要介護者・障がい者等

資料編 38

- 評価項目と数値目標一覧（再掲） 等

第1章 歯科保健計画の概要

第1節 策定の趣旨

歯や口腔の健康は、全身の健康に影響するとともに、食べるという欲求や活動意欲、または生きるという気力にまで影響を及ぼす重要な問題です。

厚生労働省及び日本歯科医師会では、平成元年から生涯自分の歯で食べるためには、「80歳になっても自分の歯を20本保つ」ことが必要として、「8020（ハチマル・ニイマル）運動」を提唱し、平成12年に生活習慣病予防のための国民運動「健康日本21」に「8020運動」の具体的目標が示されました。また、新潟県ではこれまで「むし歯半減10か年運動」「ヘルシースマイル2000プラン」「ヘルシースマイル21（第4次計画）」等を推進し大きな成果を上げ、12歳児の一人平均むし歯数は20年連続で全国最少となっています。平成20年には新潟県が全国初の取り組みとして「新潟県歯科保健推進条例」を制定し、歯科保健の一層の推進に努めています。

阿賀野市では、平成18年に「健康あがの21計画」を策定し、平成27年度に見直しを行い、令和元年度で中間評価を行った「第2次健康あがの21計画」でも、歯科保健の分野において『生涯自分の歯で食べられるようにしよう』を目標に、年代別に評価項目と指標を作成し、事業を展開しているところです。また、平成20年から「歯科保健連絡会議」を立ち上げ、歯科医師、市内各園、小・中学校の現場の先生、介護関係職員、在宅歯科衛生士、保健所職員等幅広い現場の方々から、市の歯科保健の現状と課題について協議していただき、それに基づき歯科保健事業を展開しています。

そこで、今後の課題と進むべき方向を明らかにするために「第3次歯科保健計画」を策定することとしました。

第2節 基本方針

「第2次健康あがの21計画」では、すべての市民が「生涯自分の歯で食べられるようにしよう」を歯・口腔の健康目標としています。また、「正しい口腔ケアの習慣を身につけよう」「フッ化物の利用をこころがけよう」「かかりつけ歯科医をもとう」を歯・口腔の健康を守る3つの行動目標と定めています。

本計画では、「生涯を通してむし歯と歯周病の予防に取り組み、よい生活習慣を身につけ実行できるよう環境を整える」ことを基本方針とします。

第3節 位置づけと期間

- 1 この計画は、「第2次健康あがの21計画」の「歯・口腔の健康」個別計画として位置づけます。また、「阿賀野市総合計画（平成28年度～令和6年度）」、「第2次健康あがの21計画」、「第2次阿賀野市食育推進計画」と整合性を持ち、歯・口腔の健康に関連する他の計画と連携を図るものです。
- 2 計画の期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

第4節 進捗管理と評価

年次の進捗管理については、各種事業から得られたデータや阿賀野市総合計画における市民アンケート結果等を分析・評価し、歯科保健連絡会議や健康づくり推進協議会などへの報告と検討を行って継続的な管理に努めます。また、計画の最終年度が「第2次健康あがの21計画」の最終評価年度にあたることから、その際に実施する市民アンケートに合わせて歯科保健に関する項目についても調査し、各指標の到達状況を確認するとともに、必要に応じて指標以外の項目についても調査を行います。さらに、その結果をもとに計画全体の評価・検討を行い、次の計画策定につなげます。

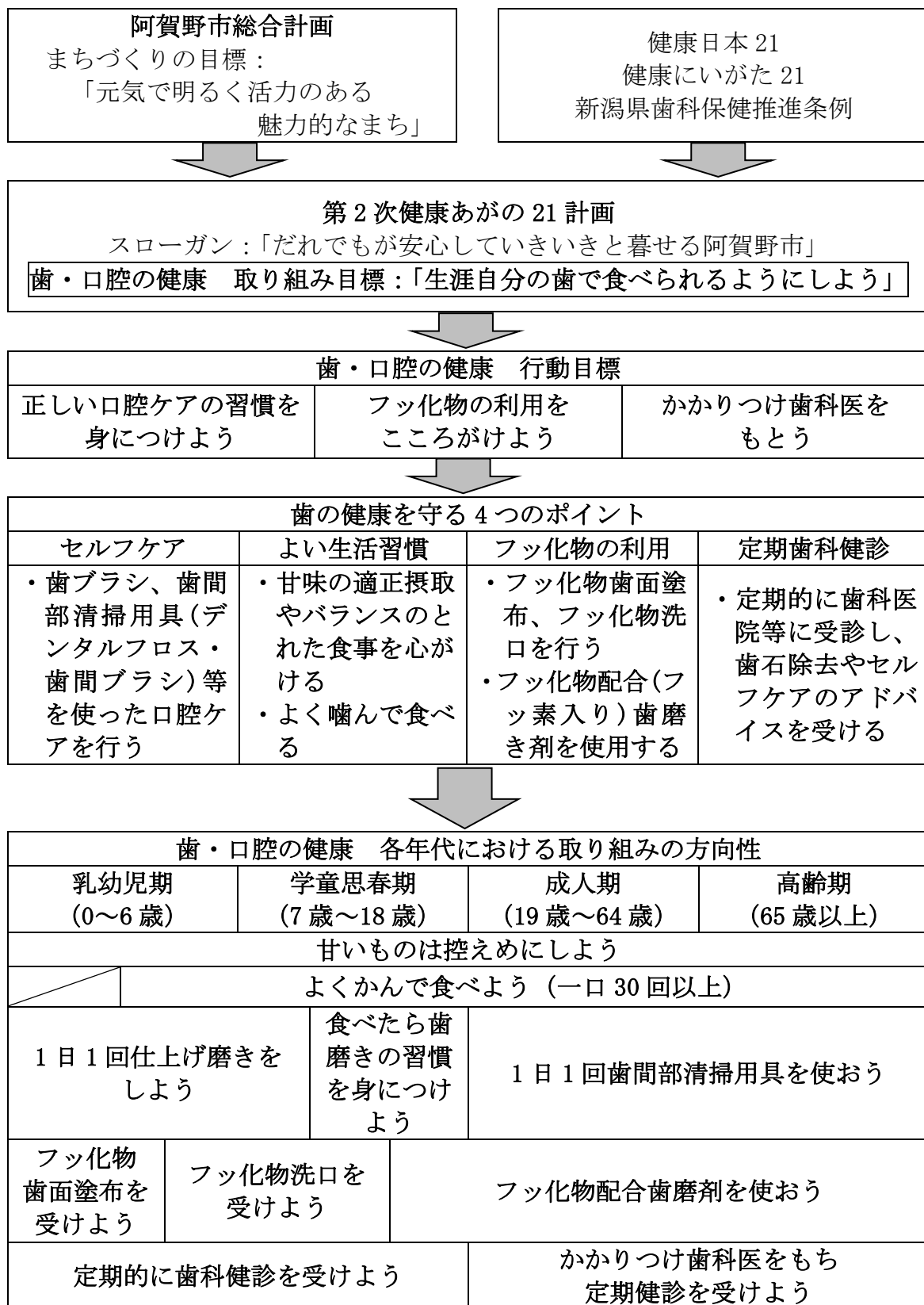
第5節 推進体制

毎年『歯科保健連絡会議』を開催し、歯科医師、市内各園、小・中学校の現場の先生、介護関係職員、在宅歯科衛生士、保健所職員等幅広い現場の方々と実態の共有と課題解決に向けた協議を行います。そして、いただいた意見を参考に、『生涯自分の歯で食べられるようにしよう』という取り組み目標や「正しい口腔ケアの習慣を身につけよう」「フッ化物の利用をこころがけよう」「かかりつけ歯科医をもとう」という行動目標への到達に効果的な事業の立案と推進を図ります。

第6節 計画の周知等

この計画については、ホームページに掲載するとともに歯科保健医療福祉関係機関等へ配布し、周知普及を図ります。また、各種健診、健康教室等を通じて市民への啓発普及に努めます。

第7節 計画の体系図



第2章 第2次計画の評価とそこから見えた課題

第1節 数値目標の達成状況

評価区分		達成度	該当項目数
A	目標達成	90%以上	11項目
B	改善	50%以上 90%未満	3項目
C	やや改善	10%以上 50%未満	0項目
D	変わらない	－10%以上 10%未満	0項目
E	悪化	－10%未満	5項目
計 19 項目 (A評価+B評価+C評価/19 項目) = 73.7 %※1			

※達成度＝（現状値－策定時値）／（目標値－策定時値）×100（％）

※1 評価項目 22 項目のうち 3 項目に調査内容の変更があり評価できなかったため 19 項目で評価しています。

乳幼児期：むし歯のない子どもを増やそう

指 標	策定時 H27	目標値 R1	現状値 R1	達成 度
むし歯のない乳幼児の割合（3 歳児）	86.2%	87.5%	90.8%	A
むし歯のない乳幼児の割合（5 歳児）	63.6%	66.8%	67.2%	A
5 歳児一人平均むし歯数	1.87 本	1.67 本	1.44 本	A
毎日仕上げ磨きをしている割合（3 歳児）	91.5%	93.5%	93.2%	B
フッ化物歯面塗布を受けたことがある 幼児の割合（1 歳児から 4 歳児）	79.8%	82.4%	80.4%	B

学童・思春期：正しい知識を身につけ、むし歯・歯周病を減らそう

指 標	策定時 H27	目標値 R1	現状値 R1	達成 度
12 歳児一人平均むし歯数	0.48 本	0.44 本	0.64 本	E
12 歳児むし歯のない生徒の割合	74.9%	77.5%	69.9%	E
12 歳児歯肉炎（G0・G）の割合	14.5%	減少 傾向へ	9.10%	A
・ G0				
・ G	1.6%	減少 傾向へ	0.30%	A
12 歳児治療歯の割合	63.3%	65.0%	79.4%	A

- ・ G0（ジーオー）とは歯肉に軽度の炎症症状があり、定期的な観察が必要な者
- ・ G（ジー）とは歯科医師による精密検査、診断、治療が必要な者
- ・ 治療歯とは治療済みの歯

成人期（含む妊産婦期）：歯周病を減らそう

しっかり噛める歯をもち食事を楽しもう

指 標	策定時 H27	目標値 R1	現状値 R1	達成 度
過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合 （20 歳以上）	44.2%	47.0%	51.3%	A
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている 者の割合（20 歳以上）	16.4%	23.0%	24.7%	A
歯間部清掃用具（歯間ブラシ）を使用してい る者の割合	25.2%	27.0%	34.3%	A
歯間部清掃用具（デンタルフロス）を使用し ている者の割合	12.0%	13.5%	18.0%	A
よく噛んで食べるように意識している者の 割合（20 歳～64 歳）※2	29.6%	35.0%	16.8%	E

※2 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 20 回以上噛む人の割合

高齢期： 歯周病を減らそう

しっかり噛める歯をもち食事を楽しもう

指 標	策定時 H27	目標値 R1	現状値 R1	達成 度
20 本以上歯がある者の割合 (70 歳代)	61.4%	65.0%	59.3%	E
80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者（8020 達成者）の割合	25.8%	28.0%	32.7%	A
定期的に歯科医院を受診（健診含む）してい る要介護認定を受けていない者の割合 ※3	28.7%	30.0%	—	—
よく噛んで食べるように意識している者の 割合（65 歳以上）※4	2.6%	3.8%	3.4%	B

※3 阿賀野市 第 8 期 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（阿賀野市高齢福祉課調べ）
の調査項目に変更があったため評価できず

※4 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 30 回以上噛む人の
割合

要介護者・障がい者等： かかりつけ歯科医をもち

歯や口の健康を保とう

しっかり噛める歯をもち食事を楽しもう

指 標	策定時 H27	目標値 R1	現状値 R1	達成 度
在宅要介護等訪問歯科健診を受ける人の件 数（県事業）	1 件	増加 傾向	0 件	E
定期的に歯科医院を受診（健診含む）してい る要介護者の割合 ※5	17.0%	20.0%	—	—
歯磨きを毎日している要介護者の割合 ※6	70.2%	75.0%	—	—

※5、6 阿賀野市 第 8 期 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（阿賀野市高齢福祉課調
べ）の調査項目に変更があったため評価できず

第 2 次計画では 19 項目のうち目標を達成したのが 11 項目、改善が見られ
たのが 3 項目で、全体の 7 割以上が改善しました。

一方、学童・思春期で 2 項目、成人期、高齢期、要介護者・障がい者等で
1 項目ずつ悪化しました。

第2節 各ライフステージの評価結果と課題

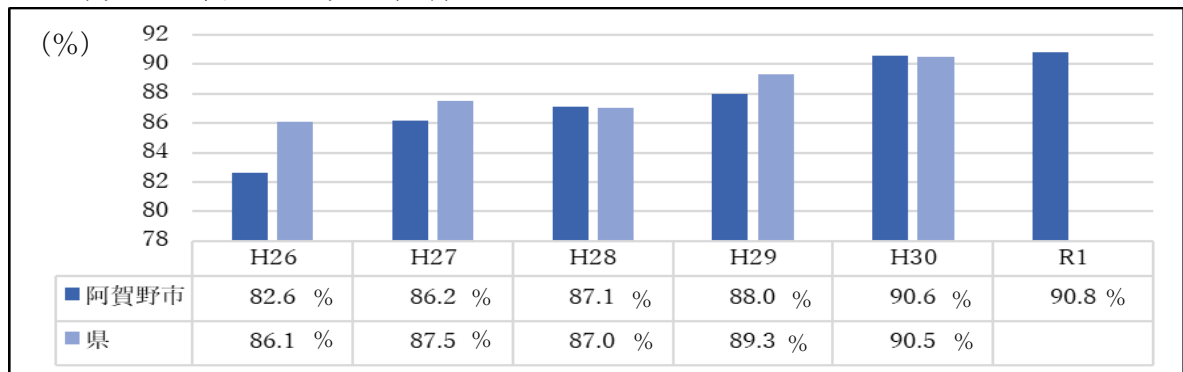


1. 乳幼児期（0歳～6歳）

目標：むし歯のない子どもを増やそう

行動目標：歯磨き・フッ化物の応用・甘味の適正摂取を習慣化しよう
お口の発達段階に合わせた食事を食べさせ、良く噛んで食べる習慣をつけよう

■ 3歳児むし歯のない児の割合

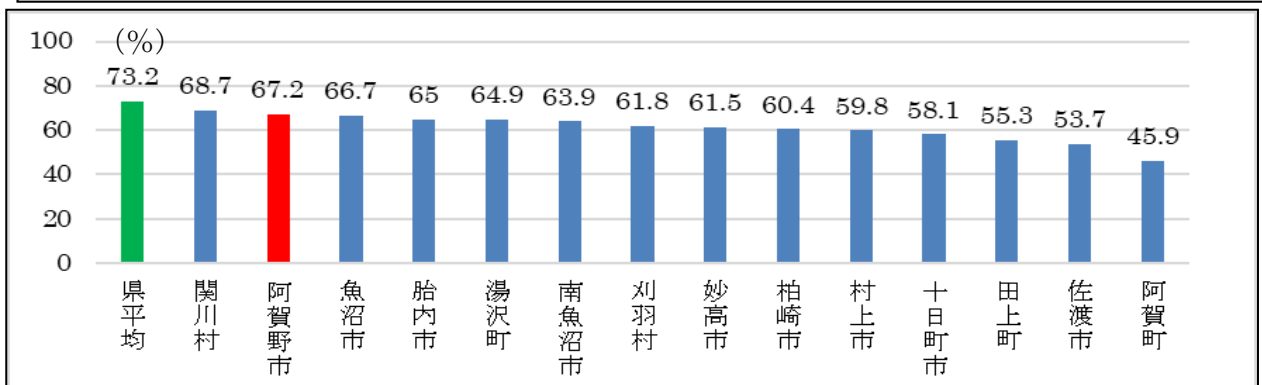
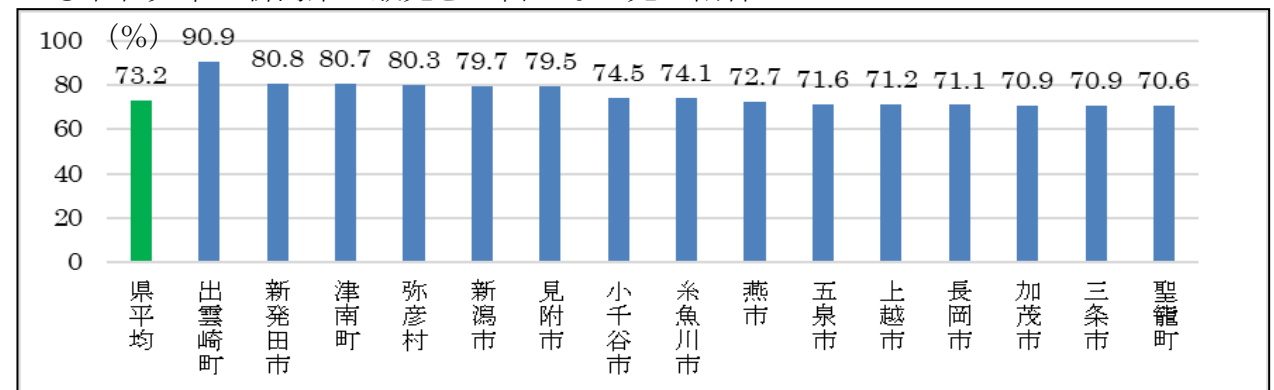


歳児歯科健診より

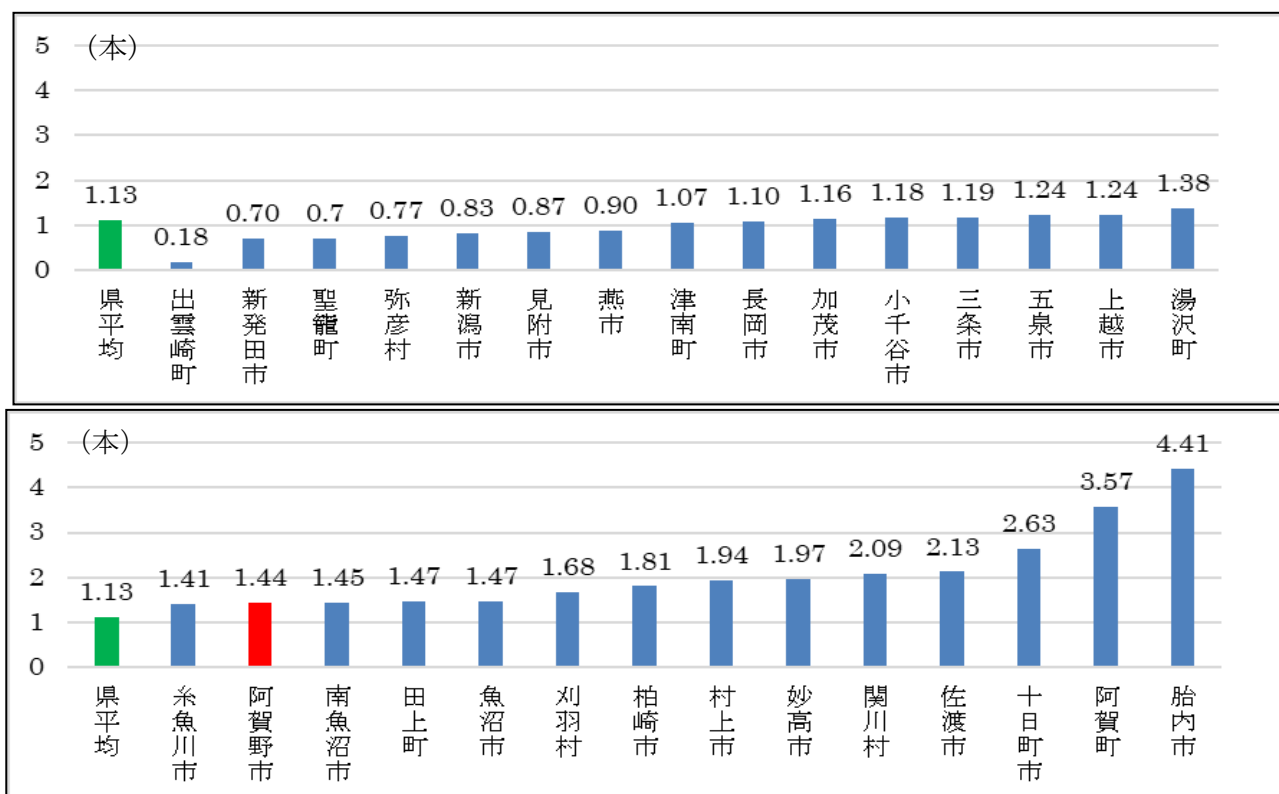
3歳児のむし歯のない児の割合は増加傾向にあり目標値（87.5%）に達成しています。平成30年では県の平均値と並び0.1ポイント上回っています。

■ 5歳児むし歯の状況

○令和元年 新潟県5歳児むし歯のない児の割合



○令和元年 新潟県 5 歳児一人平均むし歯数

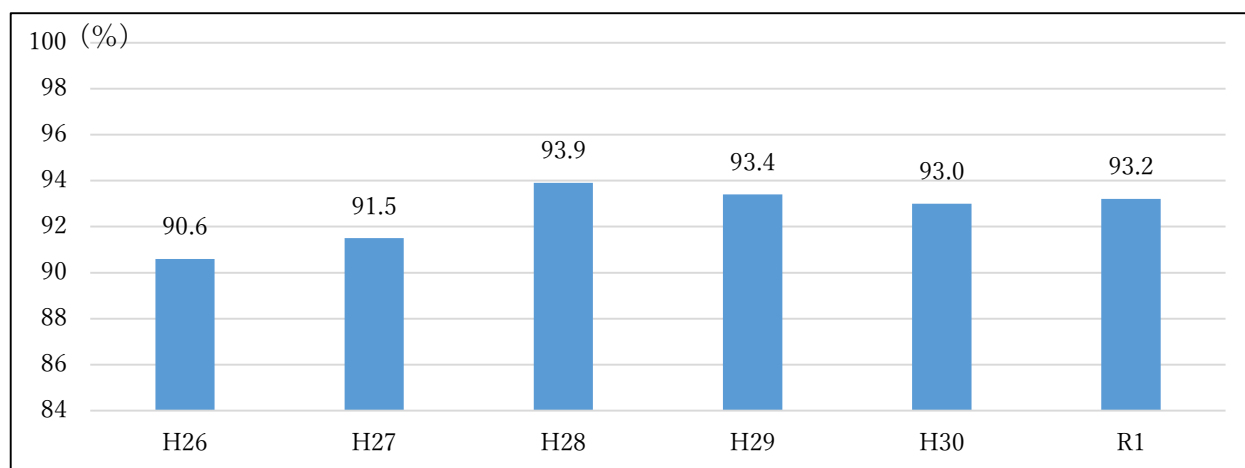


5 歳児のむし歯のない児の割合は平成 27 年 63.6%から令和元年は 67.2%で 3.6 ポイント向上しました。

一人平均むし歯数は平成 27 年 1.87 本から 1.44 本と 0.43 ポイント低下しました。

県平均と比べどちらもむし歯の多い状態です。

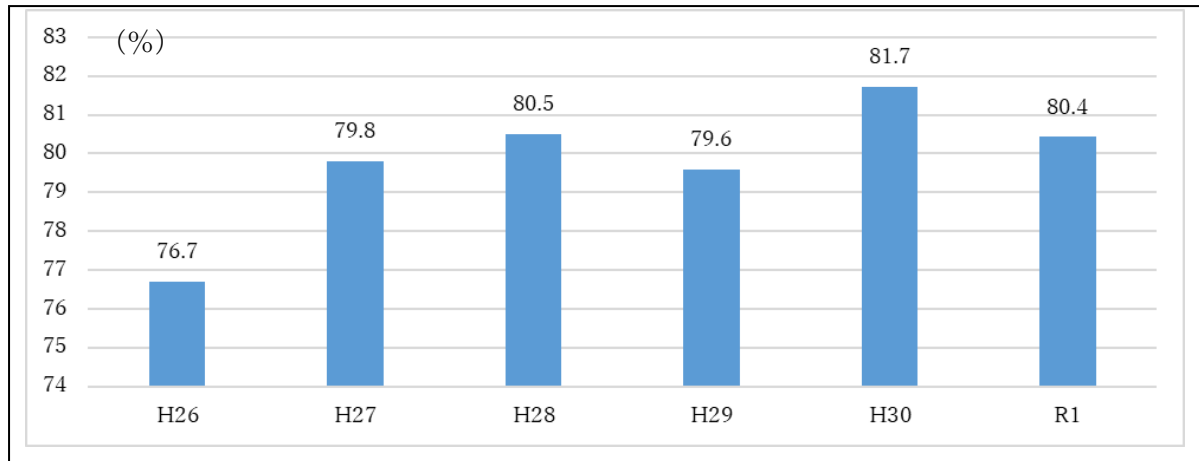
■毎日仕上げ磨きをしている割合



3 歳児歯科健診アンケートより

3 歳児の毎日仕上げ磨きをしている割合は、93.2%と改善は見られましたが、目標値（93.5%）には達していませんでした。

■フッ化物歯面塗布を受けたことがある児の割合（1歳児から4歳児）



フッ化物歯面塗布集計より

フッ化物歯面塗布事業への参加割合では目標値の 82.4%に届きません。しかし、かかりつけ歯科医院で定期的にフッ化物歯面塗布をする児が増えてきています。また独自でフッ化物歯面塗布を行っている園もあり、それを含めると 86%となり目標値（82.4%）を達成しています。

■3歳児健診アンケートより

おやつの時間	H29	H30	R1
決めている	74.0%	77.3%	69.4%
決めていない	26.0%	22.7%	30.6%

おやつ3回以上の割合	H29	H30	R1
	22.4%	19.0%	23.5%

令和元年度ではおやつを決めていない割合やおやつ3回以上の割合が増加しています。

課 題

働く保護者が増え、市が平日に行っているフッ化物歯面塗布事業では日程が合わず、その後のフッ化物歯面塗布に繋がらない現状が見られます。歯科医院などで受けている児や園で受けている児の割合を把握し一つのデータにすることが必要です。

むし歯は少しずつ減少していますが、おやつの回数が多く3回以上食べている休日はおやつの時間が決まっておらず、だらだら食べている児の割合が多い状況です。

乳幼児健診、予防教室等で歯磨き・フッ化物応用・甘味の適正摂取の重要性を伝えていくことが課題です。

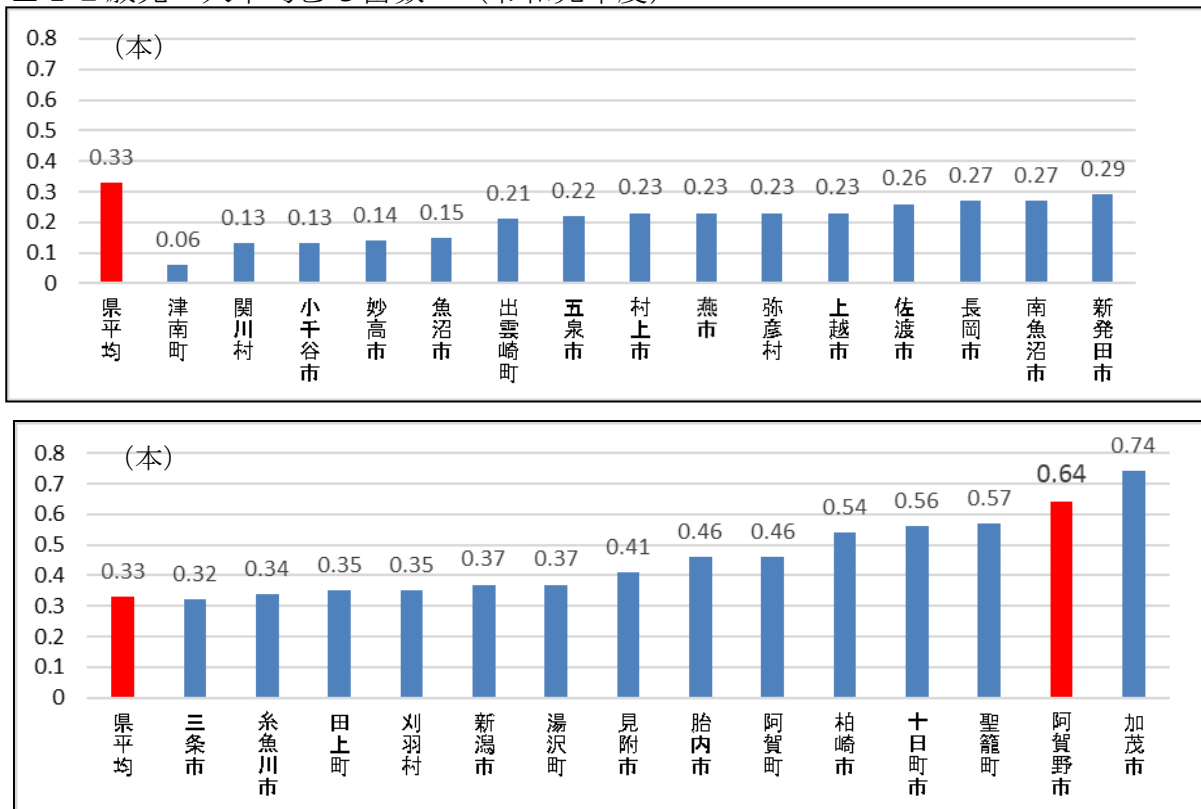
2. 学童・思春期(7歳～18歳)



目標：正しい知識を身につけ、むし歯・歯周病を減らそう

行動目標：定期的に歯科健診を受けて、セルフケアを継続しよう
よく噛んで食べる習慣をつけよう

■ 12歳児一人平均むし歯数 (令和元年度)



歯科疾患実態調査より

・令和元年度の12歳児一人平均むし歯数は阿賀野市が0.64本で県平均の0.33本との差が0.31本と大きく離れ29市町村中28位です。

■ 令和元年度阿賀野市小中学校歯肉炎割合

R1 年度		小全学年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中全学年	中 1	中 2	中 3
市	G0	4. 2%	0. 9%	1. 5%	2. 0%	5. 8%	7. 4%	7. 2%	8. 6%	9. 1%	8. 0%	8. 7%
	G	0. 3%	0. 3%	0. 0%	0. 6%	0. 0%	0. 3%	0. 6%	0. 7%	0. 3%	1. 0%	0. 9%
県	G0	8. 3%	2. 6%	8. 1%	9. 3%	10. 9%	11. 8%	8. 3%	15. 4%	14. 9%	15. 7%	15. 6%
	G	1. 3%	0. 4%	0. 9%	1. 5%	1. 4%	1. 9%	1. 9%	2. 9%	2. 5%	2. 7%	3. 4%

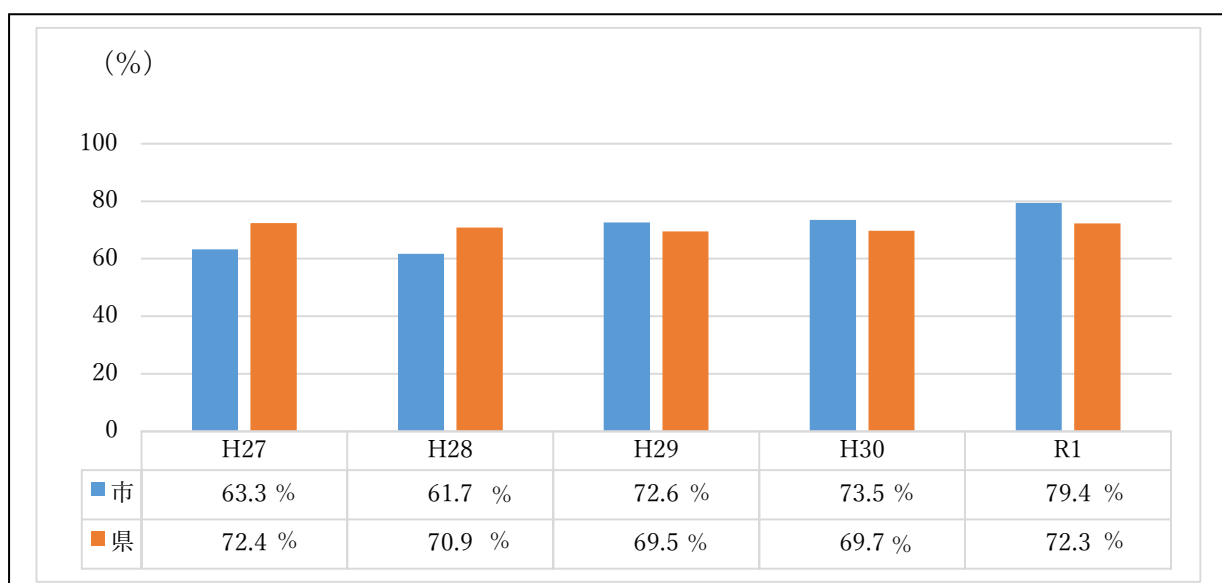
- ・小学校4年生位から歯肉炎が増えていくのがわかります。
- ・県平均と比べG0・Gともに少ない状態です。

■治療勧告が出て歯科医院に受診する割合
令和元年度

阿賀野市	歯肉炎		むし歯		C0	
	受診勧奨割合	受診割合	受診勧奨割合	受診割合	受診勧奨割合	受診割合
小学校	5.0 %	56.5%	2.5 %	50.0 %	5.3 %	48.9%
中学校	9.1%	41.1%	6.8%	37.3%	8.2%	45.7%

令和元年 歯科疾患実態調査より

・経年 阿賀野市・県の12歳児むし歯治療歯の割合



課 題

12歳児の一人平均むし歯数は平成27年までは順調に下がり、その後横ばい状態でしたが、令和元年度は増加しました。(P25の表参照)

治療勧告が出て受診する児童・生徒の割合が低くむし歯処置歯の割合（治療済みの歯）が12歳児（中1）で県平均値は72.3%ですが阿賀野市では79.4%と県平均を上回っています。

今後も、むし歯・歯肉炎予防教室等で正しい知識を身につけ、むし歯や歯肉炎を減らし、早期治療の重要性を伝えていく必要があります。

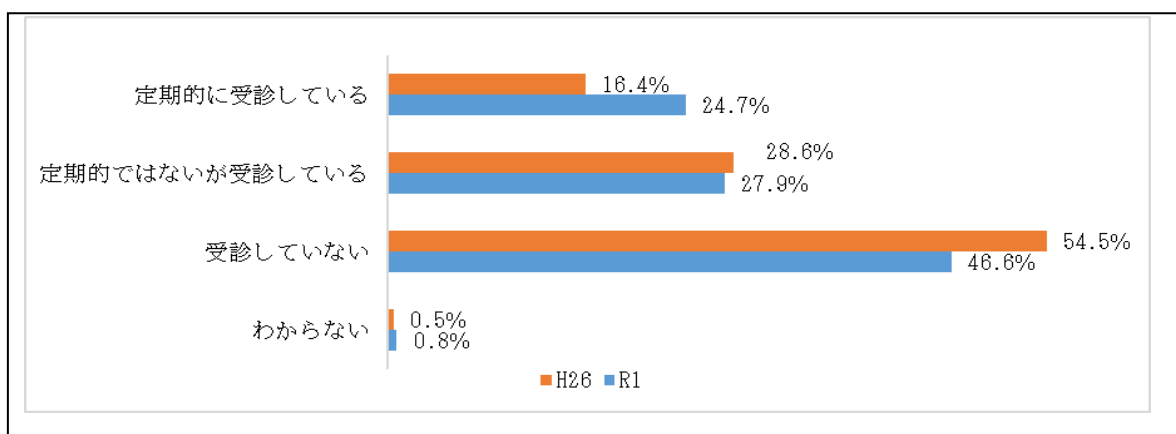
3. 成人期(含む妊産婦)



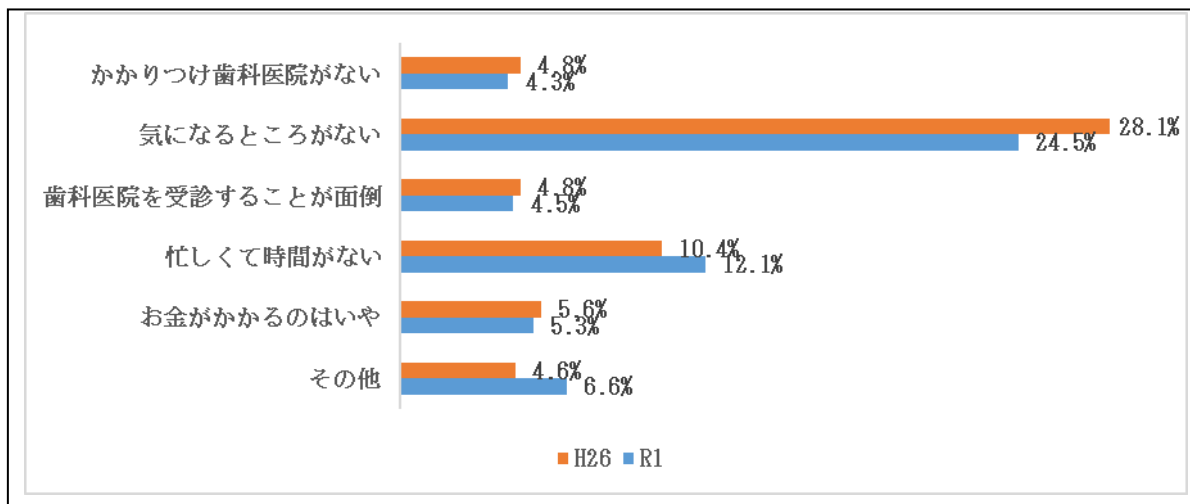
目標：歯周病を減らそう
しっかり噛める歯をもち食事を楽しもう

行動目標：かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受けよう
歯ブラシだけでなく、デンタルフロス・歯間ブラシを使う習慣をつけよう
お口のケア（歯磨き・お口の体操）を毎日しっかり継続しよう
よく噛んで肥満・糖尿病・がんを防ごう

■定期的に歯科医院を受診していますか



■受診しない理由

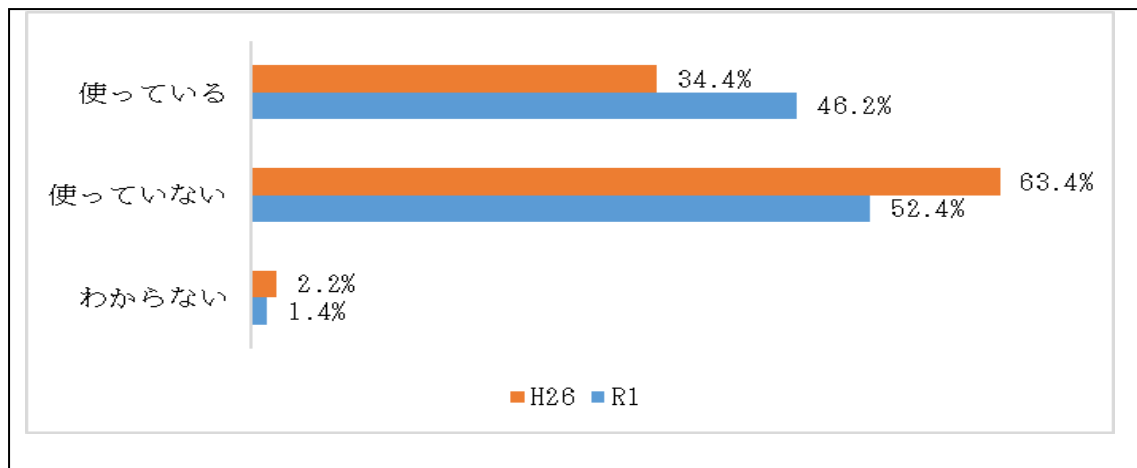


令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

「定期的に歯科医院を受診している」24.7%と「定期的ではないが受診している」が27.9%で合計52.6%と、平成26年度の45.0%から7.6ポイント向上しました。

受診しない人の理由は、5年前に比べ「気になるところがない」は3.6ポイント低下し、「忙しくて時間がない」という理由が1.7ポイント増加しました。また、質問以外の理由でも2.0ポイントの増加が見られました。

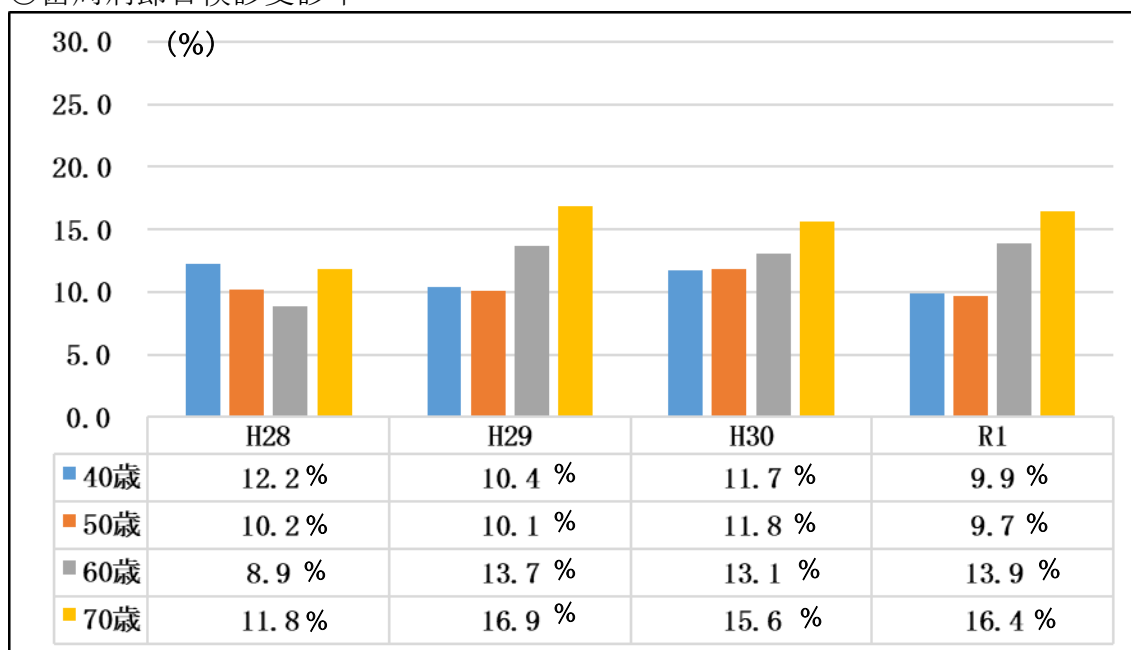
■ 歯磨きのとき、歯ブラシのほかに歯間部清掃用具などを使っていますか。



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

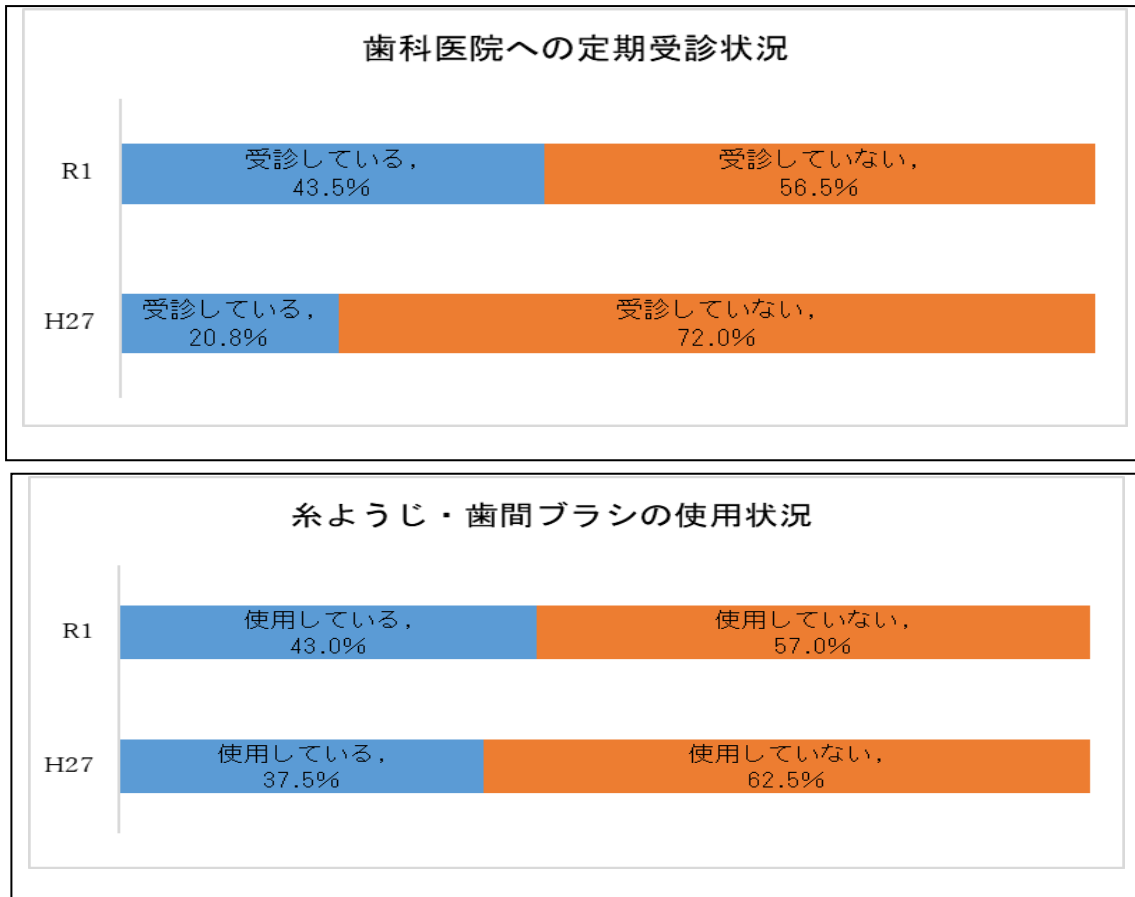
歯磨きのとき、歯ブラシのほかに歯間部清掃用具を使っている人は、46.2%で、平成26年度の34.4%より11.8ポイント向上しました。

○ 歯周病節目検診受診率



平成28年度から開始した歯周病節目検診受診率は、70歳が11.8%から4.6ポイント向上し、働き盛りの40歳は12.2%から2.3ポイント低下しました。

■妊娠中の歯の健康



妊娠中の歯の健康【令和元年度 母子健康手帳交付時アンケートより】

定期的に歯科医院を受診している妊婦さんの割合は、平成27年度に比べ 22.7 ポイント向上しました。

歯間部清掃用具を使用している割合も 5.5 ポイント向上しました。

課 題

定期的に歯科健診を受診している市民の割合は、目標の23%に達しましたが、「健康あがの21計画」の令和6年度目標値30%には達していません。さらに、40歳、50歳、60歳、70歳の歯周病節目検診が平成28年度から開始され、歯科医院を受診する機会になりましたが、働き盛りの40歳、50歳の受診率が減少しています。また、よく噛んで食べるように意識している20歳～64歳は、策定時の29.6%から16.8%と12.8ポイント低下し、悪化したことについて取り組みの見直しと強化が求められます。(P5の表「数値目標の達成状況 成人期(含む妊産婦期)」参照)

出産後は、自分自身のケアや治療が、育児に追われ疎かになるので、セルフケアについても継続した啓発が必要です。

健康な歯を保ち、80歳で20本以上の歯を維持するために、かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受け、望ましい歯みがき習慣や食習慣を定着させることは重要と考えます。

4. 高齢期

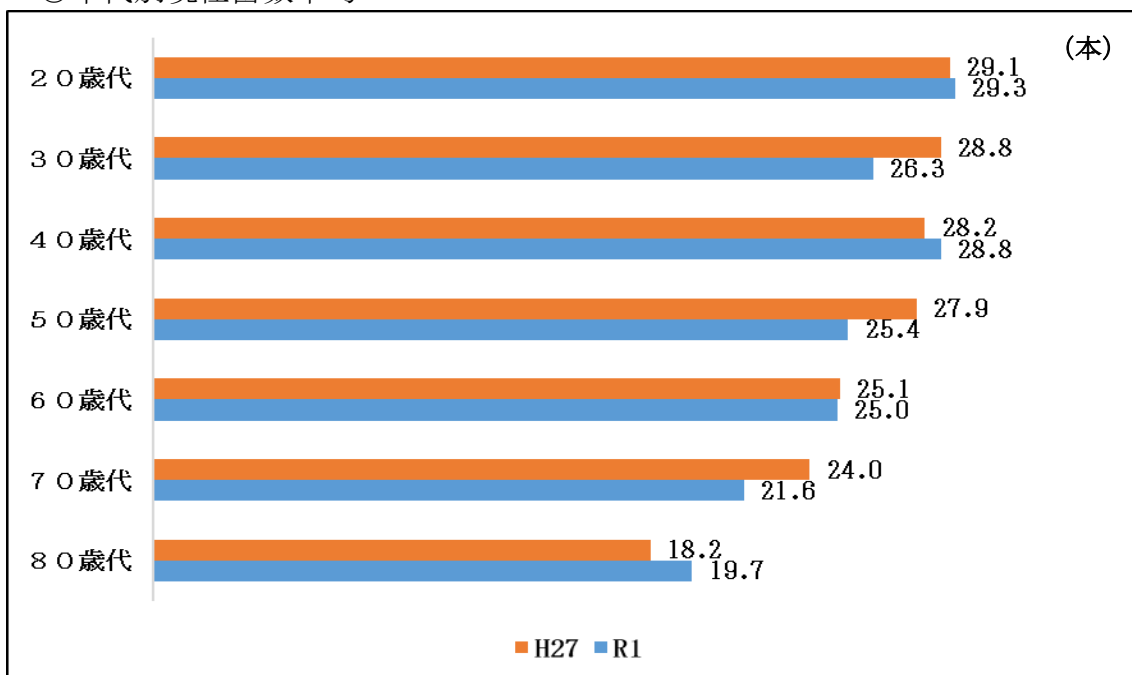


目標：歯周病を減らそう
しっかりかめる歯をもち食事を楽しもう

行動目標：かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受けよう
歯ブラシだけでなく、デンタルフロス・歯間ブラシを使う習慣をつけよう
お口のケア（歯磨き・お口の体操）を毎日しっかり継続しよう
よく噛んで肥満・糖尿病・がんを防ごう

■成人歯科健診結果

○年代別現在歯数平均



70歳代から80歳代で多くの歯を失っています。

○歯周病のテスト（唾液潜血試験）

年代別	陰性	陽性弱	陽性強
60歳代	33.3%	28.4%	38.3%
70歳代	29.3%	41.4%	29.3%
80歳代	26.7%	20.0%	53.3%

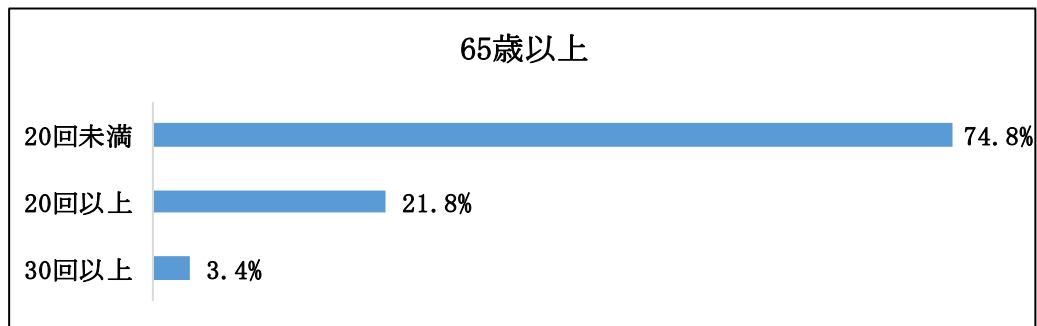
平成27年度成人歯科健診結果

年代別	陰性	陽性弱	陽性強
60歳代	15.6%	75.0%	9.4%
70歳代	17.7%	52.9%	29.4%
80歳代	38.5%	38.5%	23.0%

令和元年度成人歯科健診結果

歯周病のテストでは、どの年代も陽性弱または陽性強の判定結果が高く、歯周病の疑いがありました。

■一口に何回噛んで食べますか。



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

一口に噛む回数が 20 回未満の人は 7 割以上、目標の 30 回以上噛む人は 3.4% でした。

課 題

8020 達成者は、32.7%と、目標値の 28.0%に達しましたが、全国平均 51.2% (H28)、県平均 39.1% (H27) には届いていません。また、70 歳代で 20 本以上歯がある人の現状値が 59.3%と策定時の 61.4%より 2.1 ポイント低下していました。高齢期になると多くの歯が失われるため、継続した支援が必要です。(P6 の表「数値目標の達成状況 高齢期」参照)

80 歳になっても健康な身体と歯を保ち続けるために、定期的に歯科医院等を受診し、望ましい歯磨き習慣や食習慣を定着して行けるよう、支援の充実を図る必要があります。

5. 要介護者・障がい者等



目標：かかりつけ歯科医をもち歯や口の健康を保とう
しっかり噛める歯をもち食事を楽しもう

行動目標：定期的に歯科健診を受けよう
お口のケア（歯磨き・お口の体操）を毎日しっかり継続しよう
誤嚥性肺炎を防ごう
お口の状態に合わせた食事をしよう

要介護者

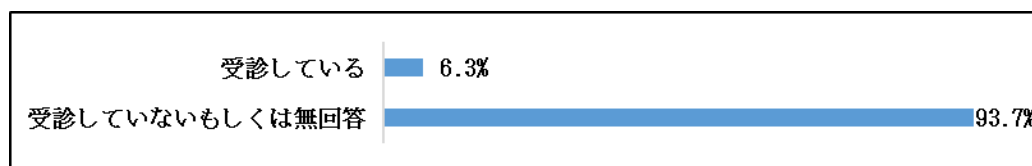
■無料訪問歯科健診（県事業）件数まとめ

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
1 件	3 件	3 件	1 件	0 件

無料訪問歯科健診の対象者：要介護 3・4・5、養育手帳 A または身体障害者手帳 1、2 級所持者など

訪問歯科健診を希望する人が減少しています。

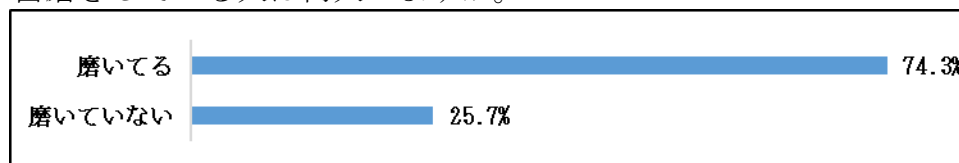
■歯や歯ぐきのチェック、歯石除去や歯面清掃のために、定期的に（2 か月～1 年以内）に歯科医院を受診している人は何人いますか。また、受診している人はどのような形態で診療を受けていますか。



受診している 79 人（通院 67 人、在宅診療 10 人 無回答 2 人）

定期的に受診している人は 6.3%と低い割合です。受診形態は、通院が 67 人、在宅診療が 10 人でした。

■歯磨きしている人は何人いますか。



磨いている 935 人/1259 人中（無回答 5 人）

74.3%の人が歯磨きをしていました。

■誰が磨いていますか 935 人中

自分	配偶者	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	介護サービス	その他
811 人	36 人	16 人	18 人	12 人	1 人	1 人	17 人	23 人

第 3 次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

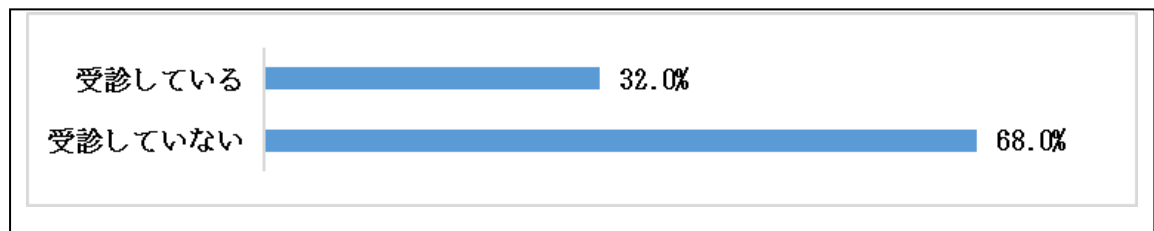
■よく噛んで食べている人は何人いますか 59.4%
745 人/1255 人中 (無回答 9 人)

■歯磨きの時、歯ブラシのほかに歯間部清掃用具等（歯間ブラシやデンタルフロス）の補助具を使っている人は何人いますか。 0.7%
9 人/1250 人中 (無回答 14 人)

第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

障がい者

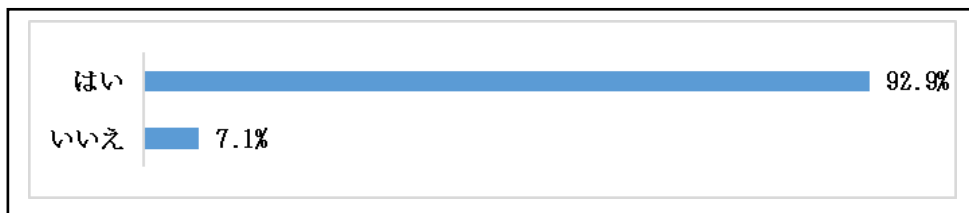
■定期的に歯科医院を受診している



受診している 32 人/100 人中 (無回答 7 人)

定期的に歯科医院を受診している人は、32.0%でした。

■歯磨きを毎日している



磨いている人 91 人/98 人中 (無回答 9 人)

■いつ磨いていますか。（複数回答あり）

朝	昼	夜	寝る前
92.3%	59.3%	37.4%	45.1%

■歯磨きは誰がしていますか。

（毎日ではないが磨いている人含む。複数回答あり。）

自分	父	母	子	その他
97 人	0 人	3 人	0 人	0 人

毎日歯を磨いている人が 92.9%でした。また、朝と夜または寝る前に磨いている人は多く、昼に磨いている人は少なかったです。

第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

- 歯磨きの時、歯ブラシのほかに歯間部清掃用具等（歯間ブラシやデンタルフロス）の補助具を使っている人は何人いますか。 14.0%
15 人/107 人中

第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

■ その他

新潟県立駒林特別支援学校からの依頼で中学部・高等部に入り歯磨き・歯肉炎予防教室を実施しています。声かけや歯磨きを手伝うなど家族の協力がある生徒は、口腔内もきれいで健康が保たれている一方、本人任せになっている場合は、プラークの付着や歯肉の炎症が多く見られていました。

課 題

アンケートの結果から、要介護者で定期的に歯科医院を受診できている人は、6.3%でした。歯磨きしている人は 74.3%で、殆どの方が自分で磨いています。59.4%の人がよく噛んで食べることができていますが、歯磨きの時、歯ブラシの他に歯間部清掃用具等（歯間ブラシやデンタルフロス）の補助用具を使っている人は 0.7%です。入れ歯の具合が悪いまま食事をしたり、十分なお口の手入れをせずに生活している人が多い状況の中で、誤嚥性肺炎や偏った食事で低栄養になっている人がいるのではないかと考えられます。（P34 グラフ「○どういふところに困難を感じますか」参照） また、県事業の無料訪問歯科健診と口腔ケア実地研修は、年々減少傾向です。

障がいのある人で、定期的に歯科医院を受診している人は 32.0%でした。92.9%の人が毎日自分で歯磨きができており、歯磨きの時に歯ブラシの他に歯間部清掃用具等（歯間ブラシやデンタルフロス）の補助用具を使っている人は 14.0%でした。家族の状況などにもよりますが、適宜の声かけや身体能力に応じた介助など、歯や口腔の健康状態を保つための協力も必要です。

第3章 第3次計画における取り組み内容

第1節 取り組みの概要

～生涯自分の歯で食べられるようにしよう～

『第2次健康あがの21計画』歯・口腔の健康における行動目標と設定理由

- ・正しい口腔ケアの習慣を身につけよう
- ・フッ化物の利用をこころがけよう
- ・かかりつけ歯科医をもとう

第2次計画を進めた結果、3歳児のむし歯がない割合が90.8%と目標に達した一方で、5歳児のむし歯がない割合は67.2%で目標は達成していますが、県平均73.2%より低い状態です。また、12歳児歯肉炎の割合と治療歯の割合は目標を達成していますが、一人平均むし歯数、むし歯のない生徒の割合については悪化しています。成人期では、定期的に歯科健診を受ける人の割合とデンタルフロスを使用している者の割合が目標達成していますが、よく噛んで食べるように意識している者の割合（20～64歳）は悪化しています。高齢期では、20本以上歯がある者の割合（70歳代）が悪化しています。

むし歯や歯周病を防ぐためには、日々の歯磨きや歯間部清掃の習慣化に加えて、フッ化物を利用し歯質強化をすることが有効です。また、かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診、歯石除去や歯面清掃を受けることが早期発見・早期治療につながります。

生涯を通して歯や口腔の健康を維持することは、全身の健康に大きくかわることから、よい習慣を身につけ実行していくことが重要です。子どもたちのむし歯は、市内各園・小学校・中学校全施設でフッ化物洗口を実施したことで減少傾向にある一方で、成人期以降では個人の努力に委ねるところが大きく、その結果、高齢期で多くの歯が失われていることが課題となっています。また、要介護者や障がい者は、歯や口腔の状態が悪いと、低栄養や誤嚥性肺炎などを起こしやすくなり、健康状態に大きな影響を与えてしまいます。今後もフッ化物の応用を中心としたむし歯予防対策並びに歯周病予防対策の充実を図り、生涯自分の歯で食べられるようにするための普及啓発をすすめる必要があります。

加えて喫煙は、たばこの煙の入口となる口腔が直接その影響を受け、歯肉の腫れや出血が見た目上抑えられ、歯周病や舌がん等の口腔内疾患に気づきにくくなり、結果疾患の発症や進行の自覚を遅らせるといわれ、その関係性に関する知識の普及や禁煙対策の取り組みが必要です。

以上のことから、すべての市民が生涯を通して自分の歯でおいしく食べられることをめざし、年代別に乳幼児期（0～6歳）、学童思春期（7～18歳）、成人期含む妊産婦（19～64歳）、高齢期（65歳以上）、要介護者・障がい者等における目標を定めるとともに、個人・家庭・地域・行政などができる取り組みを掲げ、さらに歯と口腔の健康を守る3つの評価項目を設定しました。

各年代における取り組みの方向性

乳幼児期 (0～6 歳)	学童思春期 (7 歳～18 歳)	成人期 (19 歳～64 歳)	高齢期 (65 歳以上)
甘いものは控えめにしよう			
	よくかんで食べよう（一口 30 回以上）		
1 日 1 回仕上げ磨きを しよう	食べたら歯磨 きの習慣を身 につけよう	1 日 1 回歯間部清掃用具を使おう	
フッ化物歯面 塗布を受けよ う	フッ化物洗口を受け よう	フッ化物配合歯磨剤を使おう	
定期的に歯科健診を受けよう		かかりつけ歯科医を持ち定期健診を 受けよう	

第2節 各年代における取り組みの方向性

1. 乳幼児期

- ・食べた磨く、おやつは時間や回数をしっかり決めて、甘い物は摂り過ぎないなどの生活習慣の基礎づくりが重要です。
- ・生えたばかりの乳歯は歯質が弱く 2～3 年はむし歯になりやすいため、フッ化物を利用した強い歯質づくりが大切です。この時期はまだ自分で歯をきれいに磨くことはできませんので、保護者が行う仕上げ磨きがとても大切です。

■ 取り組みを強化する部分

■ 1歳6か月児むし歯のない児の割合（％）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
阿賀野市	98.6	99.3	99.2	99.6	99.2	98.6
県	98.3	98.7	98.5	98.9	99.1	99.3

■ 3歳児むし歯のない児の割合（％）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
阿賀野市	84.1	82.6	86.2	87.1	88.0	90.6
県	85.4	86.1	87.5	87.0	89.3	90.5

○園児の歯科健診 県との比較

むし歯のない児の割合	3歳児		4歳児		5歳児	
	阿賀野市	県平均	阿賀野市	県平均	阿賀野市	県平均
H27	78.3	85.1	67.6	75.8	63.6	66.8
H28	83.5	86.6	70.4	76.5	59.9	68.9
H29	84.8	86.7	73.2	77.8	66.0	69.2
H30	83.9	88.4	77	79	65.9	71.3
R1	88.7	89.4	75.8	81.3	67.2	73.2

一人平均むし歯数	3歳児		4歳児		5歳児	
	阿賀野市	県平均	阿賀野市	県平均	阿賀野市	県平均
H27	0.79	0.53	1.50	0.96	1.87	1.47
H28	0.62	0.44	1.43	0.93	1.86	1.36
H29	0.56	0.44	1.06	0.85	1.69	1.31
H30	0.55	0.39	1.04	0.80	1.54	1.21
R1	0.41	0.33	0.86	0.70	1.44	1.13

むし歯のない児の割合は、3歳児では平成27年度から比べると4.4ポイント、県平均より0.1ポイント多くなりました。29市町村中12番目でした。

年々3歳児のむし歯のない児の割合は多くなっていますが、中には1人で多くのむし歯を持っている児もいます。

5歳児のむし歯のない割合では67.2%で3.6ポイント向上し、目標値（R元年度66.8%）を達成しました。一人平均むし歯数では1.44本で目標値（R元年度1.67本）を達成しました。県平均と比較すると数値が悪い状態です。

■ 3歳児 毎日仕上げ磨きをしている割合

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
割合（%）	90.6	91.5	93.9	93.4	93.0	93.2

平成30年に比べて微増しましたが、目標値95%には届きません。

■ 指 標

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第2次健康 あがの21 計画目標値 (R6年度)
むし歯のない幼児の割合 (3歳児)	90.8%	93.0%	85.4%
(5歳児)	67.2%	68.0%	—
一人平均むし歯数 5歳児	1.44本	1.40本	—
毎日仕上げ磨きをしている割合 (3歳児)	93.2%	95.0%	—
フッ化物歯面塗布を受けたことが ある幼児の割合 ※ 10か月児～4歳児（年少児）	80.4%	85.0%	85.0%

※ 1歳児親子歯科健診が10か月児親子歯科健診に変更になり、園で独自でフッ素塗布を行っている所もあり、かかりつけの歯科医院でフッ素塗布を定期的に行っている児も増えてきているので、その数も含めることとする。
対象を10か月児～4歳児（年少児）と変更する。

■ 実施主体ごとに求められること（◎：重点項目）

個人 家庭 地域	◎ 食べたら歯を磨く ◎ 毎日仕上げ磨きをする ◎ 定期的にフッ化物歯面塗布を受ける ◎ フッ化物洗口を継続する ○ フッ素入り歯磨き剤を使う ○ 甘味の適正摂取（時間・回数・内容等） ○ 食事はよく噛んで食べる ○ テレビは消して家族でごはんを心がける
幼稚園 保育園	◎ 歯科健診 ◎ 治療勧告を出した幼児が受診するよう啓発 ◎ フッ化物洗口 ○ 昼食後の歯磨き ○ 歯磨き週間（歯磨きカードの実施等） ○ 歯磨き教室
行政	◎ 歯科健診・歯科保健指導の充実に努めます ◎ 仕上げ磨き・甘味の適正摂取など良い生活習慣を推進します ○ フッ化物を応用した歯の健康管理を継続できるように支援します ○ よく噛んで食べる習慣を推進します ○ 歯科健診の統計・分析結果を施設に提供します

■ 主要事業

- フッ化物歯面塗布（10 か月児から年少児）
- 10 か月児健診・親子歯科健診
- 1 歳 6 か月児健診
- 3 歳児健診
- フッ化物洗口（幼稚園・保育園・認定こども園の年中児・年長児）
- 歯磨き教室（幼稚園・保育園・認定こども園・支援センター等）
- 親と子のよい歯のコンクール（県事業）
- かみかみ離乳食（仕上げ磨きの導入）

2. 学童思春期

- ・乳歯から永久歯に生え変わる時期であり、歯が抜けたり生えたりするために歯磨きが最も難しい時期です。また、生えたばかりの永久歯はむし歯になりやすいため、むし歯になりにくい口腔環境をつくる必要があります。
- ・小学校高学年頃から歯肉炎が増加し、思春期には生活習慣の変化などによりさらに歯肉炎が増える傾向があります。食べたらずく、歯間部清掃用具を使う、鏡を見て歯と歯肉のチェックを行うなど、よい習慣を身につけることが大切です。

■ 取り組みを強化する部分

12 歳児むし歯のない生徒の割合 (%)

	安田	京ヶ瀬	水原	笹神	駒林特中	阿賀野市	県平均
H27	70.9	81.0	72.6	77.4	100	74.9	80.1
H28	70.9	86.7	77.0	76.6	87.5	77.2	79.7
H29	61.4	85.7	81.2	86.4	66.7	78.1	82.1
H30	73.8	78.0	81.8	80.8	66.7	79.3	84.4
R1	52.7	90.6	68.4	78.0	80.0	69.9	84.4

12 歳児一人平均むし歯数 (本)

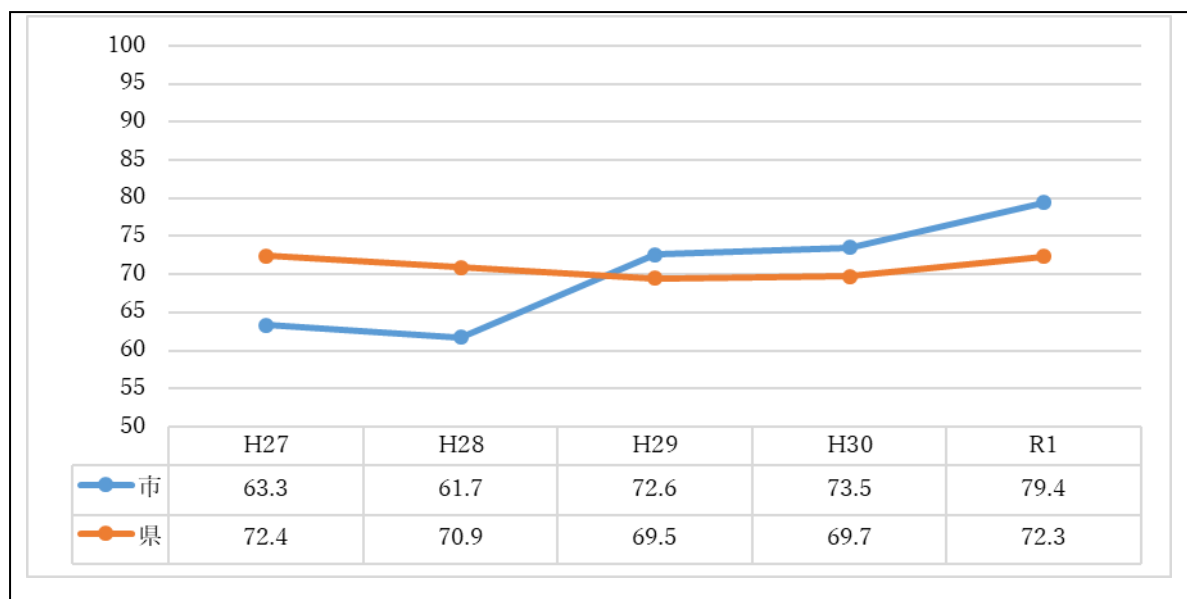
	安田	京ヶ瀬	水原	笹神	駒林特中	阿賀野市	県平均
H27	0.52	0.43	0.55	0.36	0	0.48	0.46
H28	0.74	0.17	0.59	0.57	0.38	0.55	0.44
H29	1.14	0.23	0.39	0.27	0.33	0.52	0.39
H30	0.67	0.36	0.44	0.87	0.33	0.54	0.34
R1	1.04	0.11	0.64	0.56	0.80	0.64	0.33

12 歳児のむし歯のない生徒の割合は学校格差があり 69.9%と昨年度より大幅に減少し、新潟県内でも 29 市町村中 28 番目に低い状態です。

一人平均むし歯数も県平均に比べ、約 2 倍の本数になっています。

中学校から、むし歯が増えていくので小学校の高学年から歯肉炎とむし歯予防に力を入れていく必要があります。

○12 歳児むし歯治療歯の割合（％）



- ・元年度の12歳児のむし歯治療歯の割合は79.4%になり目標値（65%）を達成し、県平均より高くなりました。

■ 指 標

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第2次健康 あがの21 計画目標 (R6 年度)
12 歳児一人平均むし歯数	0.64 本	0.40 本	0.40 本
12 歳児むし歯のない生徒の割合	69.9%	77.5%	—
12 歳児歯肉炎（G0・G）の割合	9.1%	減少傾向へ	—
・ G0（歯周疾患観察者）			
・ G（歯科医師による精密検査及び 歯周治療を必要とする者）	0.3%	減少傾向へ	—
12 歳児治療歯の割合	79.4%	80.0%	—

■ 実施主体ごとに求められること（◎：重点項目）

個人 家庭 地域	◎ 1日3回正しい歯磨きをする ◎ 小学校中学年まで仕上げ磨きをする ◎ むし歯になったら早期に治療する ◎ フッ化物洗口を継続する ○ 小学校高学年からは大人が点検磨きをする ○ デンタルフロスを使う ○ 食事はよく噛んで食べる ○ 甘味の適正摂取（時間・回数・内容等） ○ 定期的に歯科健診を受けて、セルフケアを継続する
学校	◎ 全小中学校でのフッ化物洗口 ◎ 歯科健診 ◎ 治療勧告が出た児童・生徒が受診するよう啓発 ○ 給食後の歯磨き ○ 保健だより等を通して児童・生徒保護者への歯科保健に関する啓発 ○ むし歯予防週間 ○ むし歯・歯肉炎予防教室 ○ よく噛んで食べる習慣の啓発
行政	◎ むし歯・歯肉炎予防事業を推進します ◎ フッ化物を応用した歯質強化で歯の健康管理を支援します ○ 歯科健診の統計・分析結果を施設に提供します ○ 食べたら歯を磨く・甘味の適正摂取など良い生活習慣を推進します

■ 主要事業

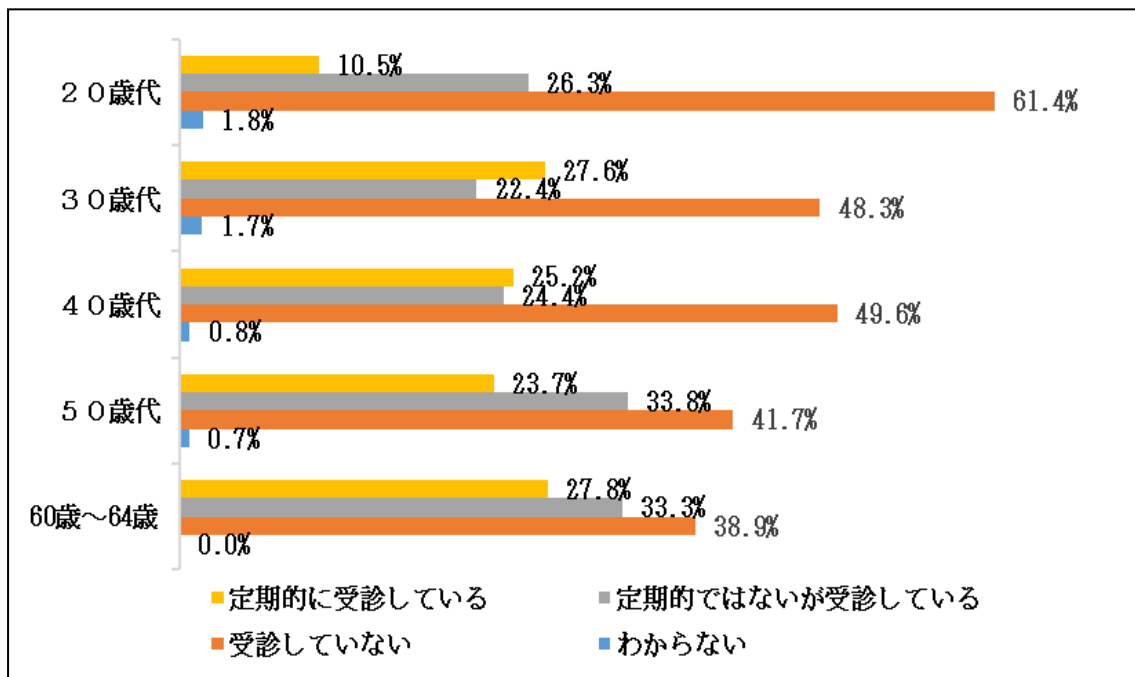
- むし歯予防教室
- 歯肉炎予防教室
- フッ化物洗口（小・中学校）

3. 成人期（含む妊産婦）

- ・生活スタイルの多様化、多忙化などによって、生活習慣に影響を与えやすい時期です。生活が不規則になると、むし歯や歯周病に罹りやすく、忙しさから受診せずにいると、むし歯や歯周病が悪化し歯を失う原因になったり、歯周病菌が全身の健康に悪影響を与えることが心配されます。
- ・喫煙すると、タールやニコチンなどの影響で歯周病に罹りやすくなります。また、妊娠期間中の歯周病や喫煙は、早産や低体重出産など胎児に影響を及ぼすことから、喫煙しないようにすることが大切です。
- ・保護者のむし歯が多いと子どものむし歯も多くなる傾向があることから、妊娠前や妊娠安定期にむし歯を治療し、出産や育児に備えることが大切です。
- ・歯と口腔の健康づくりに高い関心に向け、かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受ける、歯間部清掃用具を用いた歯磨き習慣を定着させていくことが重要です。

■ 取り組みを強化する部分

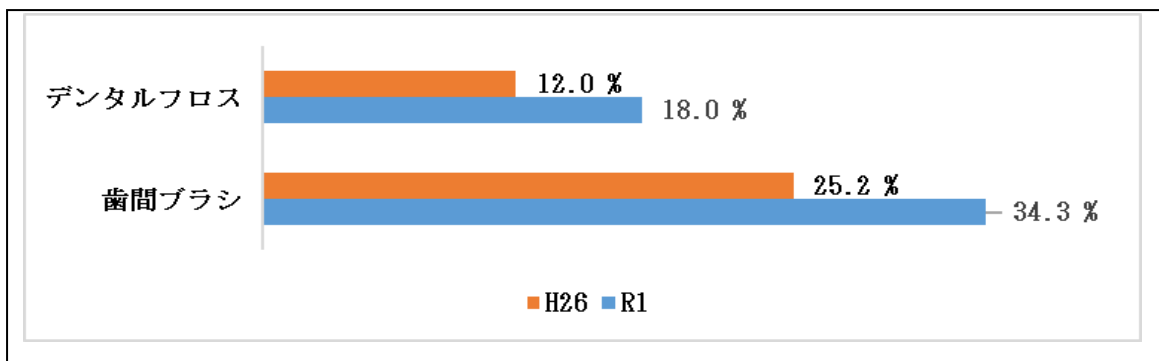
○定期的に歯科医院を受診している



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

20歳代は、定期的に受診する人が10.5%、定期的ではないが受診している人が26.3%でしたが、30歳代を過ぎたあたりから年齢が高くなるにつれて、歯科医院を受診している人が増えています。

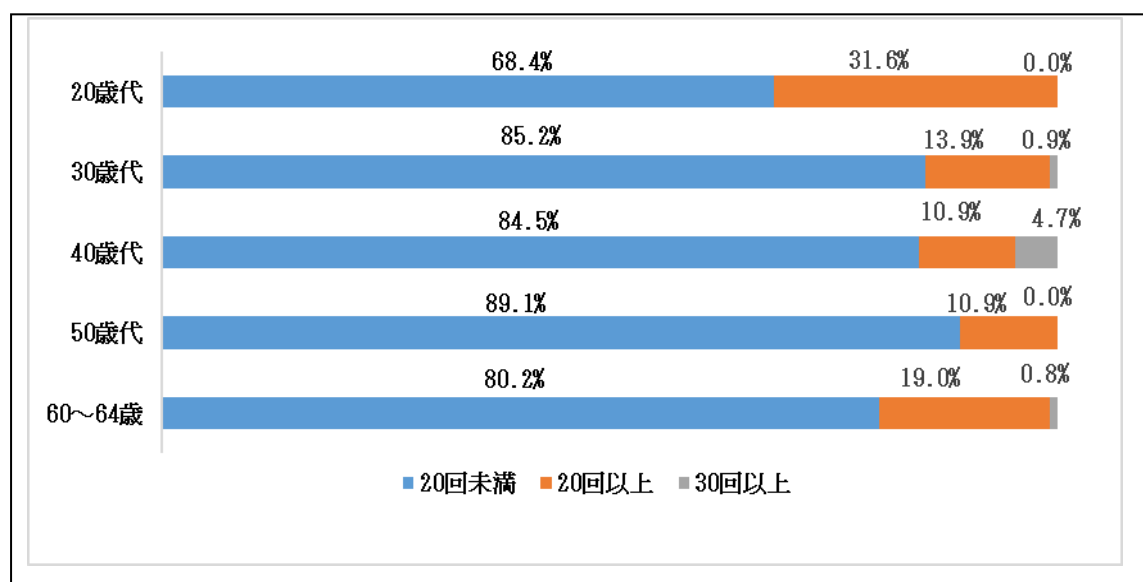
○歯磨きのとき歯ブラシ以外の補助用具の使用



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

デンタルフロス、歯間ブラシともに使用している人の割合は増えていますが、県の目標値（R2）42.0%には到達していません。

○よく噛んで食べる



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

30歳代以上の方は、一口20回以上よく噛んで食べる割合が低くなっています。

■ 指 標

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合 (20 歳以上)	51.3%	55.0%	50.0%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合 (20 歳以上)	24.7%	30.0%	30.0%
歯間部清掃用具 (歯間ブラシ) を使用している者の割合	34.3%	40.0%	30.0%
歯間部清掃用具 (デンタルフロス) を使用している者の割合	18.0%	20.0%	15.0%
よく噛んで食べるように意識している者の割合 (20 歳～64 歳) ※1	16.8%	20.0%	—

※1 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 20 回以上噛む人の割合

■ 実施主体ごとに求められること (◎：重点項目)

個 人 家 庭 地 域	◎ かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科健診を受ける ◎ 歯ブラシと歯間部清掃用具 (デンタルフロスや歯間ブラシ) を用いた歯みがき習慣を定着させる ○ 歯や口の健康を守るための知識や技術を身につける ○ よく噛んで食べるようにこころがける
職 域 関係機関など	◎ 歯科関係機関、職域、行政の連携を強化し、情報・課題を共有する ○ 職域の窓口となる商工会議所等に歯科健診の情報提供を行う
行 政	◎ 妊産婦歯科健診を実施します。 ◎ 10 か月児健診・親子歯科健診を実施します。 ◎ 成人歯科健診を実施します ◎ 歯周病節目検診 (40 歳・50 歳・60 歳) を実施します ○ 家庭、職場での歯みがき習慣を定着させることができるよう啓発に努めます ○ 歯間部清掃用具の使用を推奨し勧めます ○ 歯や口、心身の健康に関する知識の普及啓発に努めます

■ 主要事業

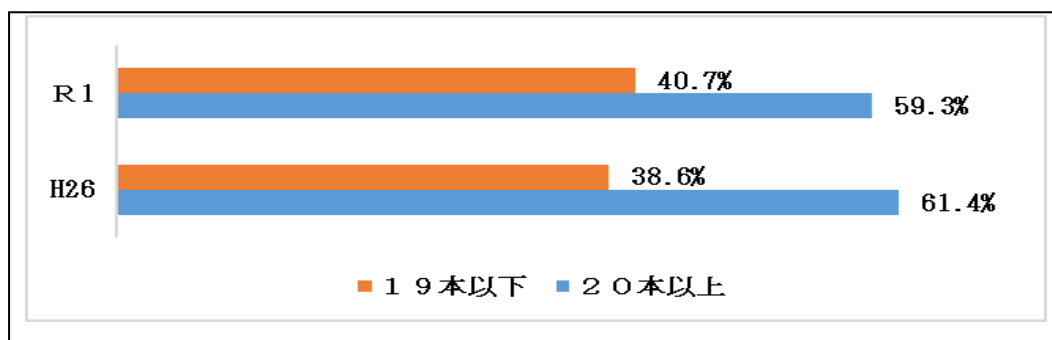
- 妊婦歯科健診
- 10 か月児健診・親子歯科健診
- 成人歯科健診
- 歯周病節目検診 (40 歳・50 歳・60 歳)
- 歯科保健健康教育

4. 高齢期

- ・オーラルフレイルから、低栄養や誤嚥性肺炎、要介護者や認知症等のリスクが高くなります。
- ・口腔機能の低下を予防するために、お口の体操や食べる姿勢に注意するなど状況に応じた工夫が必要です。
- ・高齢になっても歯を失わずに、おいしく食べて、楽しく会話ができるよう、歯や口腔の機能を維持し続けるために、かかりつけ歯科医をもち定期的に歯科健診を受ける、歯ブラシや歯間ブラシ等を使用した歯みがき習慣を定着させる、よく噛んで食べるようにこころがけることが重要です。

■ 取り組みを強化する部分

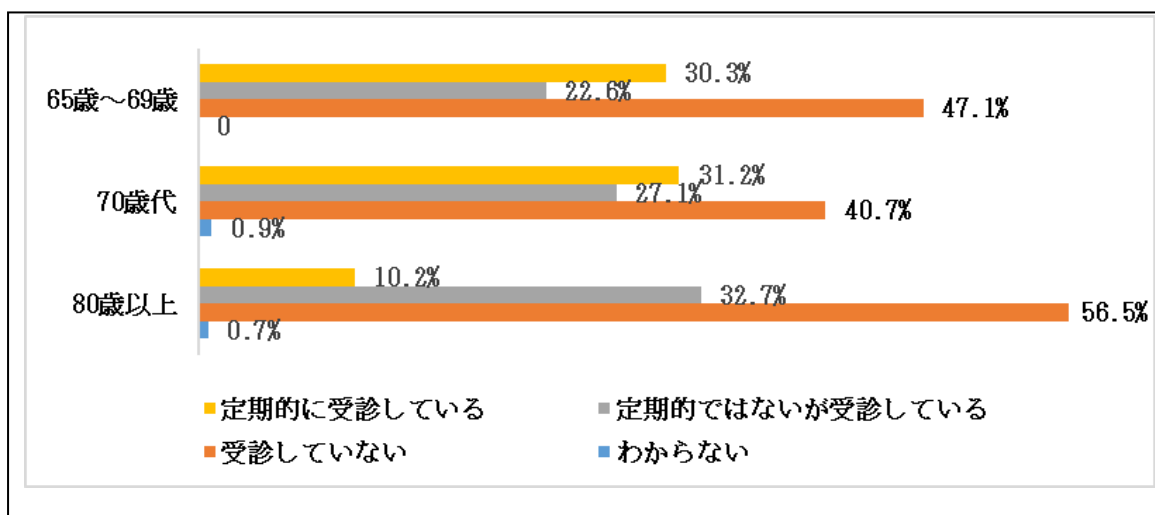
○ 80歳で20本以上自分の歯を有する人を増やす（70歳代）



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

20本以上自分の歯を有する人が、70歳代では2.1ポイント減っています。

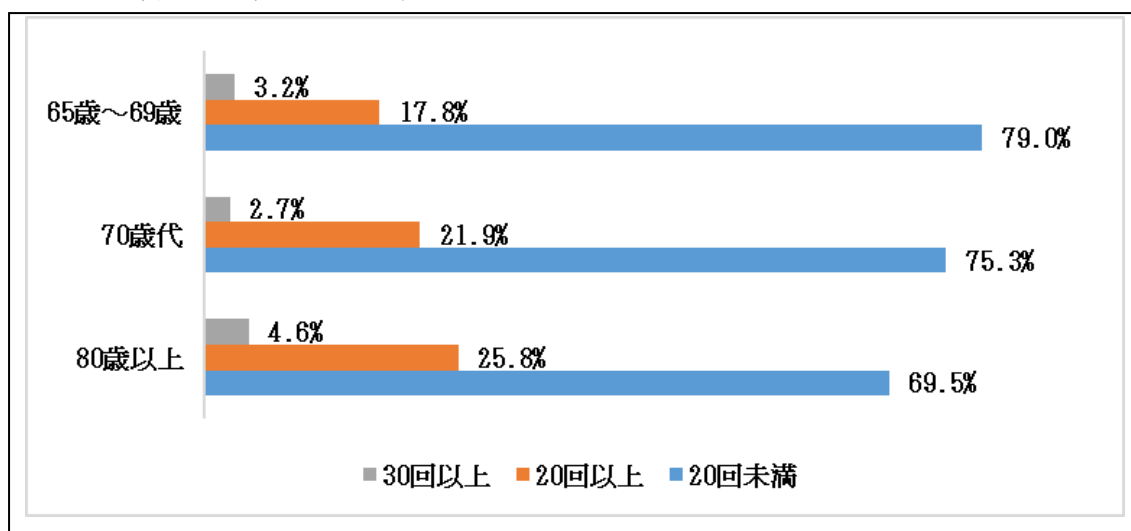
○定期的に歯科医院を受診している人を増やす



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

80歳以上の定期的に受診している人の受診率が下がっています。

○よく噛んで食べる人を増やす



令和元年度阿賀野市【健康と生活に関するアンケート調査】

65 歳～70 歳代の人が目標値の 3.8%に到達していませんが、80 歳以上では 4.6%と高く、よく噛んでいる傾向が見られました。

■ 指 標

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
20 本以上歯がある者の割合 (70 歳代)	59.3%	65.0%	—
80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者 (8020 達成者)の割合	32.7%	35.0%	30.0%
定期的に歯科医院を受診している者の 割合 (65 歳以上)	23.1%	25.0%	—
よく噛んで食べるように意識している 者の割合 (65 歳以上) ※2	3.4%	3.8%	—

※2 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 30 回以上噛む人の割合

■ 実施主体ごとに求められること（◎：重点項目）

個人 家庭 地域	◎ 定期的に歯科健診を受ける ◎ 歯ブラシと歯間部清掃用具を用いた歯みがき習慣をつける ○ 一口 30 回以上よく噛んで食べるように意識する
行政	◎ 成人歯科健診を実施します ◎ 歯周病節目検診（70 歳）を実施します ◎ 後期高齢者歯科健診（76 歳、80 歳）を実施します ○ 歯間部清掃用具の使用など、よい生活習慣を推奨します

■ 主要事業

- 成人歯科健診
- 歯周病節目検診（70 歳）
- 後期高齢者歯科健診（76 歳、80 歳）
- いきいき人生よい歯のコンクール（県事業）
- 歯科保健健康教育（元気づくり教室等）

5. 要介護者・障がい者等

- ・要介護者は低栄養や誤嚥性肺炎などを起こしやすく、健康状態の悪化に繋がるリスクが高くなります。
- ・障がい者は自力で十分なセルフケアができないことが多く、歯科疾患のリスクが高い状況にあります。
- ・障がい者の歯科受診や口腔ケアを推進するためには、障がい者施設の職員や相談支援専門員等と連携し、継続した支援が必要です。
- ・本人、家族、介護者が歯と口腔の健康に関する意識と知識を身につけ、必要な時にサービスが受けられるような環境整備が必要です。

■ 取り組みを強化する部分

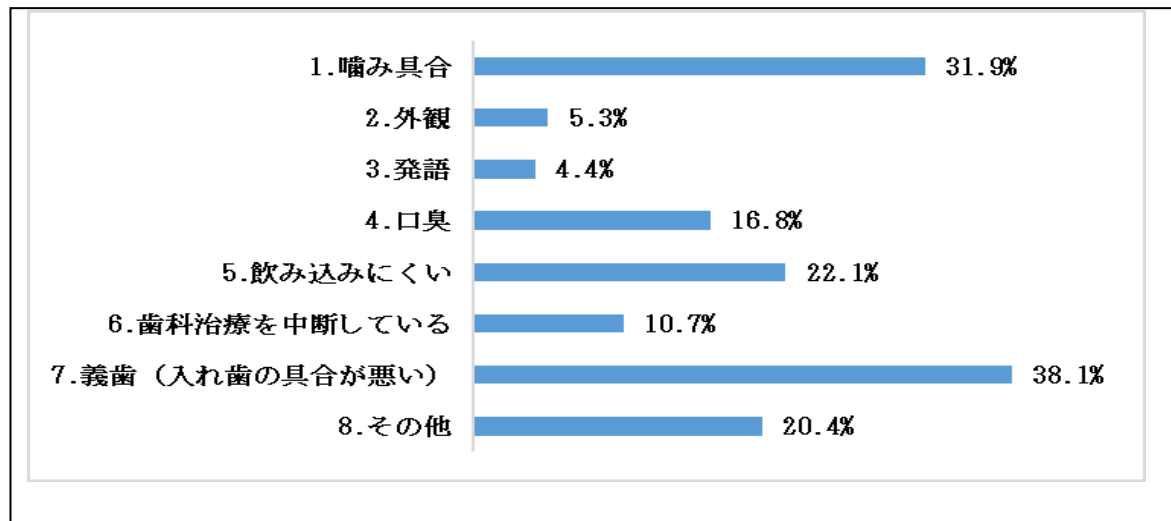
要介護者

○口腔ケアについて、困っている人は何人いますか



第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

○どういうところに困難を感じますか

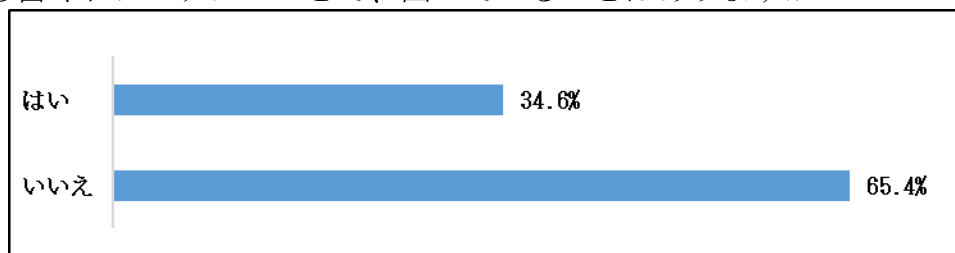


第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

要介護者で口腔のケアについて困っている人は、114人/1261人中で9.0%でした。理由として多かったのが「義歯（入れ歯の具合が悪い）」、次いで「噛み具合」、「飲み込みにくい」でした。

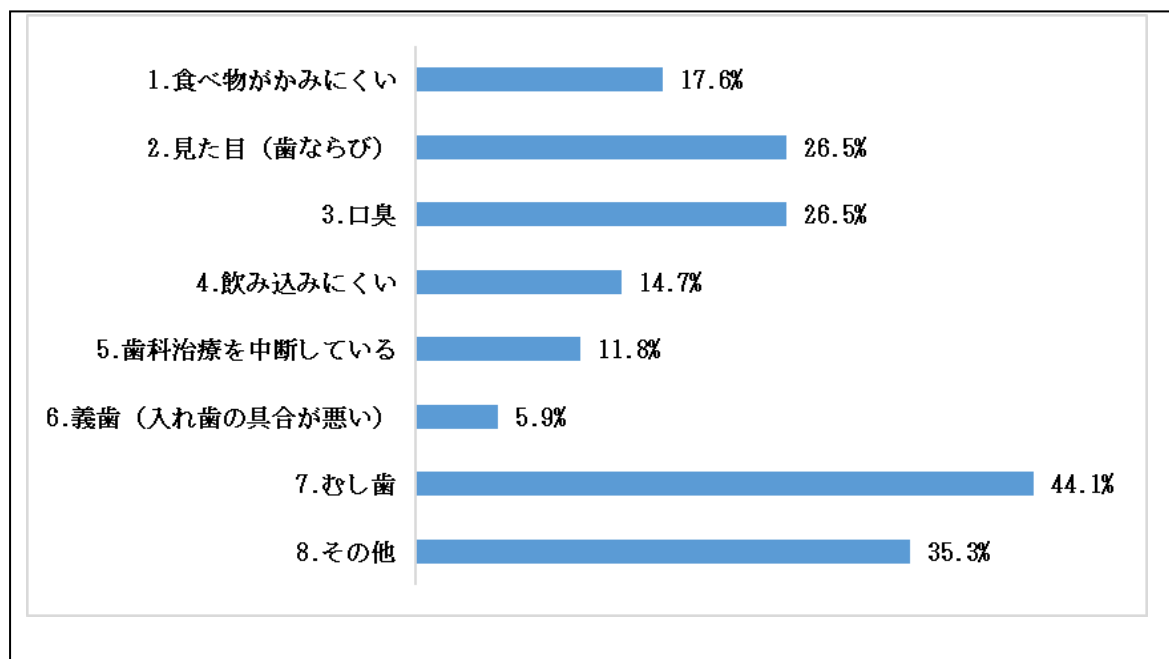
障がい者

○歯やお口のケアのことで、困っていることはありますか



第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

○困っていることは何ですか



第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

障がいのある人で口腔ケアに困っている人は、36人/104人中で34.6%でした。理由として多かったのが「むし歯」、「見た目（歯ならび）」、「口臭」でした。

要介護者・障がい者等の困りごとを解消するためにも、毎日の歯磨き習慣と歯科医院に受診できるように、関係機関との連携と支援が必要です。
特に毎日の歯磨きを丁寧に行うことは、感染症予防にも繋がります。

■ 指 標

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
定期的に歯科医院（在宅診療含む）を受診している者の割合（要介護者）※3	6.3%	10.0%	—
歯磨きを毎日している者の割合（要介護者）※3	74.3%	80.0%	—
定期的に歯科医院を受診している者の割合（障がい者等）※4	32.0%	35.0%	—
歯磨きを毎日している者の割合（障がい者等）※4	92.9%	95.0%	—

※3 第 3 次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

※4 第 3 次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

■ 実施主体ごとに求められること（◎：重点項目）

個 人 家 庭 地 域	◎ 定期的に歯科健診を受ける ◎ 本人、家族や介護者が毎日歯磨きをする ○ 要介護者や障がい者が必要な口腔ケアを受けられるように知識や情報を得る
行 政 関係機関	◎ 本人、家族や介護者に歯科保健に関する意識を啓発します ○ 歯間部清掃用具の使用など、よい生活習慣を推奨します ○ 在宅要介護者等訪問歯科健診等の普及啓発をします

■ 主要事業

- 訪問歯科相談（市）
- 特別支援学校・福祉作業所等への歯科健康教育

資料編

評価項目と数値目標一覧（再掲）等

<乳幼児期>

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
むし歯のない幼児の割合 (3 歳児)	90.8%	93.0%	85.4%
(5 歳児)	67.2%	68.0%	—
一人平均むし歯数 5 歳児	1.44 本	1.40 本	—
毎日仕上げ磨きをしている割合 (3 歳児)	93.2%	95.0%	—
フッ化物歯面塗布を受けたことが ある幼児の割合 ※ 10 か月児～4 歳児（年少児）	80.4%	85.0%	85.0%

※ 1 歳児親子歯科健診が 10 か月児親子歯科健診に変更になり、園で独自で フッ素塗布を行っている所もあり、かかりつけの歯科医院でフッ素塗布を定期的に行っている児も増えてきているので、その数も含めることとする。
対象を 10 か月児～4 歳児（年少児）と変更する。

<学童思春期>

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標 (R6 年度)
12 歳児一人平均むし歯数	0.64 本	0.40 本	0.40 本
12 歳児むし歯のない生徒の割合	69.9%	77.5%	—
12 歳児歯肉炎（Go・G）の割合	9.1%	減少傾向へ	—
・G0（歯周疾患観察者） ・G（歯科医師による精密検査及び 歯周治療を必要とする者）	0.3%	減少傾向へ	—
12 歳児治療歯の割合	79.4%	80.0%	—

現状値の取得方法	目標値設定の根拠・出典等
令和元年度 3歳児健診より	阿賀野市より上位の市町村の平均値
令和元年度 施設歯科健診より	令和元年度 施設歯科健診県平均値
令和元年度 施設歯科健診より	令和元年度の施設歯科健診の県平均値を令和6年度の目標値に設定
令和元年度 3歳児健診 歯科アンケートより	今後も割合が増えるよう設定
10か月から4歳児のうち、令和元年度でフッ素塗布を1回以上受けている人の割合 (市・園・歯科医院で定期的に行っている児を含む)	先回の計画で目標を達成できなかったため、同じ値を令和6年度の目標値に設定

現状値の取得方法	目標値設定の根拠・出典等
令和元年度 施設歯科健診より	令和6年度の目標値との差の1/2
令和元年度 施設歯科健診より	令和元年度の県平均値を令和6年度の目標値に設定
令和元年度 施設歯科健診より	毎年増減があるため、「減少傾向」と設定
令和元年度 施設歯科健診より	毎年増減があるため、「減少傾向」と設定
令和元年度 施設歯科健診より	令和元年度の県平均値を目指し、令和6年度には70%アップを目指したい

<成人期（含む妊産婦期）>

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標 (R6 年度)
過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合（20 歳以上）	51.3%	55.0%	50.0%
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合（20 歳以上）	24.7%	30.0%	30.0%
歯間部清掃用具（歯間ブラシ）を使用している者の割合	34.3%	40.0%	30.0%
歯間部清掃用具（デンタルフロス）を使用している者の割合	18.0%	20.0%	15.0%
よく噛んで食べるように意識している者の割合（20 歳～64 歳）※1	16.8%	20.0%	—

※1 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 20 回以上噛む人の割合

<高齢期>

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
20 本以上歯がある者の割合（70 歳代）	59.3%	65.0%	—
80 歳で 20 本以上自分の歯を有する者（8020 達成者）の割合	32.7%	35.0%	30.0%
定期的に歯科医院を受診している者の割合（65 歳以上）	23.1%	25.0%	—
よく噛んで食べるように意識している者の割合（65 歳以上）※2	3.4%	3.8%	—

※2 【阿賀野市】健康と生活に関するアンケート調査における一口 30 回以上噛む人の割合

現状値の取得方法	目標値設定の根拠・出典等
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	これまでの増加傾向を踏まえて設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	これまでの増加傾向を踏まえて設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	これまでの増加傾向を踏まえて設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	現状値を上回ることとして設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	よく噛んで食べる（20回以上噛んでいる） 数値を上回ることとして設定

現状値の取得方法	目標値設定の根拠・出典等
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	現状値を上回ることとして設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	現状値を上回ることとして設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	現状値を上回ることとして設定
令和元年度阿賀野市の健康と生活に関するアンケートより	よく噛んで食べる（30回以上噛んでいる） 数値を上回ることとして設定

＜要介護者・障がい者等＞

指 標	R1 年度 現状値	R6 年度 目標値	第 2 次健康 あがの 21 計画目標値 (R6 年度)
定期的に歯科医院（在宅診療含む）を受診している者の割合（要介護者）※3	6.3%	10.0%	—
歯みがきを毎日している者の割合（要介護者）※3	74.3%	80.0%	—
定期的に歯科医院を受診している者の割合（障がい者等）※4	32.0%	35.0%	—
歯磨きを毎日している者の割合（障がい者等）※4	92.9%	95.0%	—

※3 第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）

※4 第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）

現状値の取得方法	目標値設定の根拠・出典等
第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）より	現状値を上回ることとして設定
第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（要介護者）より	現状値を上回ることとして設定
第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）より	現状値を上回ることとして設定
第3次歯科保健計画策定に関わるデータ収集のためのアンケート（障がい者）より	現状値を上回ることとして設定

『 鼻呼吸を意識しましょう ～実は怖い、口呼吸～ 』

人間は鼻で呼吸するのが本来の姿なのですが、その呼吸を口で行うことで様々な影響が出てきます。

その一つに感染症があります。

口呼吸では鼻呼吸に比べて空気中の遺物が除去できないほか、取り入れる空気の湿度や温度を高めることができません。したがって、気道が細菌やウイルスに感染する危険性が高まります。

口呼吸をしていると口の中が乾燥して唾液の分泌が悪くなるため、むし歯や歯周病になりやすくなります。特に幼少期における口呼吸は口を開けている時間が長くなるために口輪筋によって前歯を内側にいれる力が弱くなり、上顎前突（出っ歯）の原因の一部になります。

加えて口呼吸をしていると、当然息をする必要があるため、口本来の機能である咀嚼機能も低下します。そのため嚥下機能の低下や消化不良を引き起こしてしまいます。

これらを予防するために鼻呼吸を意識しましょう。



新潟県阿賀野市 民生部 健康推進課

〒959-2092

阿賀野市岡山町10番15号

TEL : 0250-62-2510

FAX : 0250-62-2513

E-mail : kenko@city.agano.niigata.jp

